

建築都市コース

■ 建築学専攻

■ 都市システム科学専攻

1. スタッフ紹介（平成21年3月現在）

<建築計画・都市計画>

上野 淳（うえの じゅん） 教授／工学博士
建築計画，地域公共施設計画，環境行動研究，環境心理学
9-869室，042-674-2814 内線4778

吉川 徹（よしかわ とおる） 准教授／博士(工学)
都市計画，都市解析，地理情報システム
9-868室，042-677-2813 yoshikawa-tohru@c.metro-u.ac.jp

竹宮 健司（たけみや けんじ） 准教授／博士（工学）
建築計画，環境行動研究
9-874室，042-677-1111内線4785 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

鳥海 基樹（とりうみ もとき） 准教授／仏国博士(都市学)
都市設計，都市計画，都市史
9-867室，042-677-2812

黒川 直樹（くろかわ なおき） 助教／工学修士 西洋建築史，景観計画史，建築保全
計画 9-828号室 TEL: 042-677-1111 内線4764 el-negro@arch.metro-u.ac.jp

松本 真澄（まつもと ますみ） 助教
住宅問題
9-877室，042-677-1111内線4788

<建築歴史・意匠>

小林 克弘（こばやし かつひろ） 教授／博士(工学)
建築意匠，建築設計，西洋建築史
9-871室，042-677-2816 or 042-677-1111 内線 4782

山田 幸正（やまだ ゆきまさ） 教授／博士（工学）
日本建築史，東洋建築史，保存
9-870室，042-677-2815 yyamada@tmu.ac.jp

小泉 雅生（こいずみ まさお） 准教授／工学修士
建築設計，意匠設計，設計論

27-872室, 042-677-2817 koizumi@ecomp.metro-u.ac.jp

木下 央 (きのした あきら) 助教/修士 (工学)
建築意匠, 建築歴史, 建築設計
9-827室, 042-677-1111内線4763

猪熊 純 (いのくま じゅん) 助教/修士 (工学)
建築意匠, 建築設計
9-732室 042-677-1111 内線4728 j0920un@tmu.ac.jp

椎橋武史 (しいばし たけし) 特任助教/博士 (工学)
建築意匠, 建築設計, 近現代建築論
9-827室, 042-677-1111内線4763

<建築生産>

深尾 精一 (ふかお せいいち) 教授/工学博士
建築構法, 構法計画, 構法設計
9-873室 042-677-2818 sfukao@tmu.ac.jp

橘高 義典 (きつたか よしのり) 教授/工学博士
建築材料, 環境材料, 耐久性評価
9-775室 042-677-2797 kitsu@tmu.ac.jp

角田 誠 (つのだ まこと) 教授/博士(工学)
建築生産, 耐用計画, 資源循環システム
9-767室, 042-677-2807 mtsunoda@arch.metro-u.ac.jp

門脇 耕三 (かどわき こうぞう) 助教/修士 (工学)
建築構法, 構法計画
9-826室 042-677-1111 内線4762 kkad@tmu.ac.jp

松沢 晃一 (まつざわ こういち) 助教/修士 (工学)
建築材料, コンクリート工学, 耐久性評価
9-730室 042-677-1111 内線4726 matsuzawa-kouichi@tmu.ac.jp

<建築構造>

芳村 学 (よしむら まなぶ) 教授/工学博士
鉄筋コンクリート構造, 耐震工学, 耐震設計

9-773室 042-677-2800 myoshim@arch.metro-u.ac.jp

北山 和宏(きたやま かずひろ) 准教授/工学博士 鉄筋コンクリート構造, 耐震設計,
地震工学 9-771室, 042-677-2802 kitak@ecomp.metro-u.ac.jp

高木 次郎(たかぎ じろう) 准教授/ph. D

構造設計, 鉄骨構造, 安定性問題

9-774室 042-677-2798 takagi-jiro@tmu.ac.jp

山村 一繁(やまむら かずしげ) 助教/工学修士

構造工学, 荷重・外力

9-729室 042-677-1111 内線4725 kyamamur@arch.metro-u.ac.jp

見波 進(みなみ すすむ) 助教/博士(工学)

構造, 鋼構造

9-727室 042-677-1111 内線4723 minami-susumu@c.metro-u.ac.jp

中村 孝也(なかむら たかや) 助教/博士(工学)

鉄筋コンクリート構造

9-728室 042-677-1111 内線4724 takaya@ecomp.metro-u.ac.jp

<建築環境>

市川 憲良(いちかわ のりよし) 教授/工学博士

建築環境工学, 給排水衛生設備

9-770室 042-677-1111 内線4744 nichit@tmu.ac.jp

須永 修通(すなが のぶゆき) 教授/博士(工学)

建築環境学, 省エネ・自然エネルギー利用建築, 温熱快適性

9-768室, 042-677-2805, sunaga-nobuyuki@tmu.ac.jp

永田 明寛(ながた あきひろ) 准教授/博士(工学)

建築環境学, 熱湿気環境

9-769室 042-677-2804 ngt@tmu.ac.jp

中山 哲士(なかやま さとし) 助教/博士(工学)

建築環境システム, 気象データ, 都市環境

9-734室 042-677-1111 内線4732 nakayama@tmu.ac.jp

深澤 たまき(ふかざわ たまき) 特任助教/博士(工学)

建築環境学, 省エネ・自然エネルギー利用建築, 温熱快適性

9-733室, 042-677-1111 内線4733

<戦略研究センター>

青木 茂 (あおき しげる) 教授/博士 (工学)
建築設計, 再生建築, リファイン建築, リファイニング建築
9-772室 042-677-2801 shigeruaoki@aokou.jp

<都市空間システム>

中林 一樹 (なかばやし いつき) 教授/工学博士
都市計画, 都市防災論, 都市復興論, まちづくり論
9-553室 TEL: 042-677-1111 内線4272 nakabasi@comp.metro-u.ac.jp

玉川 英則 (たまがわ ひでのり) 教授/工学博士
都市・地域解析, 都市・地域計画
9-556室 TEL: 042-677-1111 内線4275 htama@tmu.ac.jp

伊藤 史子 (いとう ふみこ) 准教授/博士(工学)
都市計画, 都市解析, 住環境分析, プロジェクトの経済分析
9-558室 TEL: 042-677-1111 内線4273 itofumi@tmu.ac.jp

市古 太郎 (いちこ たろう) 助教/博士 (都市科学)
防災都市計画, 事前復興まちづくり, 災害リスク管理
9-152室, 042-677-1111 内線 4231 ichiko@comp.metro-u.ac.jp

<都市社会システム>

星 旦二 (ほし たんじ) 教授/医学博士
公衆衛生学, 都市健康科学
9-565室 TEL: 042-677-2355 内線 4278 star@onyx.dti.ne.jp

羽貝 正美 (はがい まさみ) 教授 / 法学修士
都市行政, 都市政策, ガバナンス
9-560室 042-677-2361 内線4163 mhagai@comp.metro-u.ac.jp

竹宮 健司 (たけみや けんじ) 准教授/博士 (工学)
建築計画, 環境行動研究
9-874室 042-677-1111 内線 4785 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

饗庭 伸（あいば しん） 准教授／博士(工学)

都市計画, まちづくり, 都市計画制度

9-566室 TEL : 042-677-2359 aib@tmu.ac.jp

山本 薫子（やまもと かほるこ） 准教授／博士（社会学）

都市社会学、地域社会学、コミュニティ論、移民研究

9-154 室 TEL : 042-677-1111 内線 4233 kahoruko@tmu.ac.jp

2. 研究概要

<建築計画・都市計画>

【上野淳・松本真澄】

多摩ニュータウンの再生・活性化に関する研究

上野 淳, 松本 真澄

開発・入居開始後30年を経過する我が国最大のニュータウンである‘多摩ニュータウン’をフィールドとし、その再生・活性化をめざす多角的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 多摩ニュータウン近隣センター商店街の再生・活性化に関する研究
- 2) 多摩ニュータウンにおける地域活動の系譜と展開
- 3) 多摩ニュータウンのNPO・高齢者支援スペースに関するケーススタディー

教育施設の建築計画に関する研究

上野 淳

教育改革や社会情勢の変化に対応して、学校施設の在り方にもドラステックな改革の動きが見られる。主として公立小・中学校に焦点をあて、児童・生徒の生活・学習の実際やカリキュラム運営の実際などを丹念に取材調査し、その計画・デザインの指針をもとめる継続的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 統合新設の教科教室型中学校における学校運営の実態と生徒・教師の意識・評価
- 2) 小中一貫校の建築計画に関する研究
- 3) 中高一貫校の建築計画に関する研究
- 4) 障害種によらない総合支援学校の建築計画に関する研究
- 5) オープンスペースをもつ学校建築の系譜と展望

建築・都市空間における環境行動に関する研究

上野 淳, 松本真澄

都市施設、都市のオープンスペースにおける人間行動の法則性や特徴的な環境行動を丹念な調査によって取材し、建築・都市空間のデザインに指針、知見を導く一連の研究。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 郊外型ショッピングモールにおける利用者の行動様態に関する研究
- 2) 月齢別の発達段階からみた乳幼児の保育環境に関する研究

分譲集合住宅の管理と再生に関する研究

松本 真澄

分譲集合住宅の再生を行うには、所有者や居住者の合意形成が重要であり、これは管理形態・運営の方法に大きく関わっている。具体事例を詳細に検討することで調査研究を進めている。本年度は、初期の分譲集合住宅を事例として、管理形態の変遷、開発経緯など

について調査を行い、成果の一部を報告書として公表した。

ライフスタイル変化と住要求に関する研究

松本 真澄

生活をとりにくく環境変化により、ライフスタイルも大きく変化してきている。特に単身者の生活は社会経済の変化や情報機器の発達などによる変化の影響を大きく受けている。また、女性のライフスタイルも少子高齢化の影響を受けて多様になっている。本年度は、女性のライフスタイルに関する産学連携の共同研究を行った。

【吉川徹】

既存公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク最適配置手法の開発

吉川 徹，柳澤 一希（日本学術振興会）

我が国では、社会の情報化、高齢化、成熟化により、既存公共施設を活用した公共施設ネットワーク再構成計画手法の開発が必要とされている。このため、多摩ニュータウンの最初期の開発地域を含む東京都多摩市を対象として、市の保有する公共施設ストックを活用した地域施設の最適配置手法を、分野間協力によって開発した。特に通所型高齢者施設などの利用者分布の距離減衰の新しい理論モデルの開発と、公共施設のウェブ予約システムの実態調査を行った。

地図配信 ASP を活用した地域情報共有プラットフォームの構築研究

吉川 徹，玉川 英則

本研究は、今後の我が国の成熟情報社会における地域情報共有の社会基盤整備に資することを目的とした。このため、地図配信 ASP を活用して、地方自治体・地域住民・各種団体が地域情報を発信・共有できる、低コスト・柔軟・オープンなプラットフォーム構築の検討を行い、自治体、住民の参加による実証実験を行った。特に、メールを活用した簡易な情報登録システムのフィージビリティスタディーを行った。

【竹宮健司】

精神科患者の社会復帰施設支援態勢・環境に関する研究

竹宮健司

2006年度から施行された障害者自立支援法では、精神病院の基準病床削減目標を掲げているが、現実には社会復帰支援施設が少なく、また支援態勢も充分とは言い難い。本研究では、先駆的な実践を行っている医療法人を対象に継続的に精神科医療施設の受療行動（病棟移動・転院等）および病棟の利用実態を詳細に把握した（2007年～2008年）。また、精神科の病院を退院後に利用するデイケア・デイナイトケアの利用状況を把握し、これからの社会復帰支援態勢・環境の基礎的知見を得ることを目的としたケーススタディを行った。

がん診療連携拠点病院の建築計画に関する研究

竹宮健司

2007年に施行されたがん対策基本法に基づく「がん対策推進計画」では、積極的な治療

の推進とともに、治療の初期段階からの緩和ケアの実施が中心的課題として掲げられ、がん診療連携拠点病院の整備が進められている。しかし、こうした方針に対応した医療施設の空間要件や整備指針に関する知見は乏しい。本研究では、がん診療連携拠点病院における先駆的な緩和ケア実践事例の実地調査をもとに新たながん医療の方針に対応した施設環境整備に関する検討を行った。

高齢者・障害者のための居住環境整備に関する研究

竹宮健司

高齢者や障害者が住み慣れた地域や居住施設に住み続けられるためには、適切な支援サービスの提供とともに居住環境の整備も重要な要因となる。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- (1) 高齢者専用賃貸住宅整備の動向とその共有空間の利用特性
- (2) 知的障害者の支援態勢からみた共同生活環境

【鳥海基樹】

世界のコンヴァージョン建築

鳥海基樹・小林克弘・橘高義典

単にミクロな建築コンヴァージョンを調査するのではなく、空間的にも時間的にもマクロな視点を確立することで、近視眼的な費用便益分析が阻む建築・都市ストックの有効活用を考察した。その結果を単行本として出版した。

歴史的環境の防災

鳥海基樹・後藤治（工学院大学）他

防災上の理由で歴史的環境が破壊されてしまうことに対する視座を確立するため、科研費を得て主にフランスの歴史的モニュメントの防災設備を調査し、その知見を後藤経由で文化庁等に還元するべく論文を執筆した。

フランスの現代都市デザイン

鳥海基樹・赤堀忍（芝浦工業大学）

歴史的環境や低層住宅地に偏向している日本の景観街づくりの矯正のため、科研費及び大林都市研究財団助成金を得てフランスのバナルな空間の都市デザイン研究を実施した。それを『新建築』誌上に於いて連載し知見を一般に還元した。

自転車街づくり

鳥海基樹

パリのワンコイン・レンタサイクルであるヴェリブの研究を、経済産業省研究会やテレビ放送等により一般に還元した。

【黒川直樹】

アメリカ建築史および景観計画史に関する研究

黒川直樹

建築史研究では近年、良質な街並み形成に向けて既往建物の今日的意味づけと建築資産の最適再利用が急務とされる。本研究では同分野で先行するアメリカを対象に、再生計画をめぐる最新動向に関して現地調査結果で得た知見を総集する形で発表した。

<建築歴史・意匠>

【小林克弘・木下央】

近現代建築の構成手法に関する分析

小林克弘，木下央，椎橋武史

建築意匠研究の目標のひとつは、建築美を生み出す諸造形原理を明らかにすることにある。そのためには、優れた建築作品を分析することによって具体的な造形原理を抽出し、更にそうした原理が作品に適用される際の具体的な設計手法を考察することが極めて有効となる。この「近現代建築の構成手法に関する分析」という研究テーマは、近代以降の建築の中で、特に幾何学形態や明確な構成意図を備えた作品を対象として、その構成原理を具体的に分析・考察する。2008年度は、ルイス・サリヴァン、オットー・ヴァーグナーなどの建築作品を対象とした分析を行った。それまでの研究の成果の一部を2008年度日本建築学会大会などに発表した。

建築設計手法の開拓

小林克弘，木下央

建築意匠研究においては、研究によって見出した建築の造形原理や構成手法を実際の建築設計に応用することによって、理論と実践、基礎研究と応用とを結び付けることも大きな目標のひとつである。研究室として、年に数件の建築実施設計競技に取り組むことを通じて、また、具体的な実施プロジェクトを通じて、新たな建築設計手法、建築デザイン手法の開拓を目指す。本年度は姫路市北駅前広場整備計画を作成し、研究を通じて見出した成果を実際の建築設計に応用することの有効性を検証した。

建築ストックの活用に関する意匠的研究

小林克弘，木下央，三田村哲也，椎橋武史

既存建築を様々な更新活用方法を考案することは、建築界の重要なテーマのひとつとなっている。首都大学東京大学院建築学専攻では、2003年度から文部科学省21世紀COEプロジェクト「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」に取り組んだが、このテーマに対する建築意匠・建築設計の視点からの取り組みとして、用途変更（コンバージョン）による建築ストック活用の具体的なケーススタディや海外におけるコンバージョン・改築事例実地調査結果に基づく分析を行っている。2007年度には、この数年の海外事例調査の成果を単行本としてまとめ、2008年度には、調査対象をさらに広げるべく、研究構想を練った。

【山田幸正】

ベトナム・ハノイの近代集合住宅の改善計画

山田幸正

ベトナムは 1950 年代以降、旧ソビエトなど社会主義諸国からの援助を受けながら、首都ハノイをはじめ主要都市において、国営の集合住宅団地を数多く開発してきた。高温多湿の亜熱帯性気候のなか、これらの集合住宅は、構造的にも、設備・機能的にも、また美観的にも大いに老朽化してきている。近年、資本主義的な市場経済を積極的に導入するドイモイ政策が進展するなか、個人の嗜好の多様化を反映して、住宅に対して改変への要求はかなり増大しているものと考えられる。本研究では、ハノイ建築大学と協力体制を確立し、住民たちによって醸成されてきた既存の住環境的価値を活かしながら、新たな価値や機能を付与した都市型集合住宅に改善するための計画手法を検討している。

アジアにおける伝統的な木造建築および集落に関する調査研究

山田幸正

アジアの諸地域における伝統的な建築物や集落の多くは、近年の急激な経済発展のなかで、建築的な実態が明らかにされる以前に消滅しているという危機的状況にあり、それらを調査・研究し、その保存策を講ずることは急務とすべき課題である。こうした観点に立ってベトナムにおいて継続的に実施してきた伝統的民家および集落に関する調査の成果を踏まえて、本年度は北部ナムディン省など旧ブイチュ教区における木造教会建築に関する調査・研究を実施した。

関東における近代和風建築の建築的実態と保存に関する調査研究

山田幸正、大野敏（横浜国大）、大橋竜太（東京家政学院大学）

我が国の建築文化のうち、近世までの社寺や民家などの建築遺構については全国規模での調査がほぼ完了し、その概要が把握されているが、明治から昭和戦前までのものについてはいまだその建築史的な価値など十分に理解されているとはいえない。一方で、登録文化財制度の制定などによって、そうした建造物が身近な文化遺産として捉えられるようになり、保存修復さらには活用などが図られている事例が増加しつつある。こうした状況のなか、文化庁が実施する全国規模の調査の一環として、東京都による調査が平成 18 年度より開始された。東京都内の青梅市御嶽、日の出町、多摩市、日野市、あきる野市、町田市などにおいて当該調査を実施し、その実態などについて報告した。

イスラーム文化圏における歴史的建造物および都市に関する研究

山田幸正

イスラーム文化圏に所在する多くの歴史的建造物は、建築技法上においても意匠上においても、独特の卓越性をもつにもかかわらず、我が国ではいまだにその実態が十分理解されているとはいえない。それらの集合体である歴史的環境や都市性についても同様に解明されているとはいえない。そのようなイスラーム建築およびイスラーム都市に関する継続的な研究の一環として、本年度は、中世から近世にかけてのヨーロッパとイスラーム世界の関係のなかから、聖地巡礼にまつわる建築文化の交流について、ブリヂストン美術館春期連続講演会と府中市市民企画講座で 2 度講演を行ない、また、インド圏のイスラーム建

築について、国際女性建築家会議日本支部（UIFA JAPON）第46回海外交流の会で講演を行なった。

【小泉雅生】

都市及び建築における領域のアクセシビリティの研究

小泉雅生

住宅がいかに関係に対して開かれるかという住宅と街との関係の分析を行い、さらに対象を一般化して建築と都市との関係へと考察を進める。住宅と街との接続方法や距離の作られ方、領域の配列、領域間の境界の強度などの分析を通じ、都市的なレベルでの領域のアクセシビリティを考慮した建築設計手法の研究・開発を行い、実地に応用をはかっていく。

家族像の変化に基づく住居の変化の研究

小泉雅生

高齢化・少子化・離婚率の上昇などにより、家族像が大きく変わりつつある。にもかかわらず、その器である住居については、殆どが旧来の核家族を想定した平面計画のままである。そこで現代の日本社会における家族形態・家族像の分析をベースに、実際の居住形式や住居の変化の分析を重ねあわせ、新しい住居のあり方を模索する。その一つの可能性としてコレクティブハウジングを取り上げ、具体的な設計提案を行う。

【猪熊 純】

多様性を獲得するワンルーム空間の研究と実践

猪熊純，成瀬友梨(成瀬・猪熊建築設計事務所)，

30平米程度のワンルームは、人が住むことのできる最小の単位である。この極小の住空間は、あらゆる生活空間を考える上での基礎となる単位であろう。本研究は、この極小空間をより豊かで多様にする原理を探り、住宅や集合住宅、あるいは公共空間における人々の具体的な生活に応用してゆくことである。

本年度は、(株)エイブル，成瀬・猪熊設計事務所と協働し、実際に30平米程度のワンルームをデザインし、TOKYO DESIGNERS WEEK 2008にて展示を行った。その成果は世界的にも評価され、国内外あわせて7社のメディアにて発表、来年度も既に5社が予定されている。

商空間の研究

猪熊純，成瀬友梨(成瀬・猪熊建築設計事務所)，

商業のための空間は、都市を形成する上でも、人が集うことを考える上でも、重要な要素のひとつである。にもかかわらず、建築の分野で、具体的に設計と関わるようなレベルでの研究は多くない。数学的・抽象的な論考、都市的な界限の調査などが、大半を占める。こうした流れの中で、本研究では具体的な商空間の構成に着目し、これからの商空間を作る上で応用可能な原理を見つけることを主眼とする。

本年度は、成瀬・猪熊設計事務所と研究を行い、世界的に最も有名なファッションブランドであるベネトンの店舗の設計競技にて、具体的な提案をおこなった。結果は Special

Mentions (2等)であったが、その考え方は高く評価され、表彰式と同時に発売された書籍にて大きく取り扱われ、また新聞でも見開きで記事が掲載された。

宇都宮を事例とした、縮小する都市に関する研究

猪熊純,

今後日本の都市は、人口減少と共に縮小へと移行する。にもかかわらず、地方都市は郊外化を続け、中心部は廃れつつある。本研究では、ある程度の郊外化を受け入れながらも、中心部を再構築し、縮小しながら街を魅力的に変えてゆく手法を、宇都宮を事例として研究する。本年度は、地元の地方紙である下野新聞にてその成果を発表し提言を行った。

WPC住宅ストック活用のための、技術的研究

小泉雅生, 北山和宏, 高木次郎, 門脇耕三, 見波進, 猪熊純,

高度経済成長期に建設された中層の公共集合住宅を活用する動きが活発となる中で、SPHに代表されるような、壁式プレキャストコンクリート構造(WPC構造)による中層集合住宅は、十分な活用方策が必ずしも講じられていない。その一因として、WPC構造住宅の場合、耐震壁に開口を設けるなど、構造計画の変更を伴う改修が技術的に困難なことが挙げられる。

このような認識に立ち、この度、国土交通省建設技術研究開発助成制度による「WPC住宅ストック高度利用促進技術開発委員会」を発足し、中層壁式プレキャストコンクリート集合住宅について、現代の新たな住要求に適合させるため、構造体に適切な補強を加えながら、開口を設けるなどの変更を施す技術の開発等を進めている。

Bamboo House Project 竹を利用した被災地住宅の開発研究

青木茂, 中林一樹, 鳥海基樹, 高木次郎, 門脇耕三, 猪熊純

今年度起こった四川大地震によって明らかになった問題のひとつに、震災時の農村部での震災住宅供給がある。都市部では充実した交通網を武器に多くの住宅が世界中から集まるが、一方で農村部は交通の便も悪く、後回しとなる。そんな状況に対して有効となるのは、地元にある資材を活用し、地元の人々が自分で建設できる、新しい被災地住宅である。本研究は、アジアや南米を中心として広く生息し、成長が極めて早い竹に注目し、構造まで全て竹で作る被災地住宅を研究した。本年度は実際に2棟の住宅を試作し、必要材料、必要人工を調べると共に、横浜赤レンガ倉庫での展示、および各種メディアによる発表を行った。

<建築生産>

【深尾精一・門脇耕三】

高度経済成長期に建設された公共集合住宅の活用手法に関する研究

深尾 精一, 門脇 耕三

高度経済成長期に建設された公共集合住宅は、その多くが改修を必要としている。本年度は、主要構造部の変更を伴う改修工事について、複数の集合住宅の施工調査を行った。また、壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造の集合住宅について、壁パネルへの開口設

置技術の開発を行った。さらに、大韓住宅公社により建設された韓国の中層住宅について、活用手法の検討を行った。

集合住宅の建設方式に関する研究

深尾 精一，門脇 耕三

集合住宅の新たな建設方式として、躯体と内装・住戸内設備等を明確に分離する SI 住宅が注目されているが、その構法について研究を進めた。本年度は、ヨーロッパおよび我が国における初期の SI 住宅の現状に関する調査を行った。また、建築設計事務所との協働により、SI 住宅の新たな建設システムの開発を行った。

戸建て住宅の改修実態に関する研究

深尾 精一，門脇 耕三

我が国の戸建て住宅は、欧米諸国に比してその寿命が短いことは以前から指摘されてきたが、建築ストックの活用に関する意識が高まりつつある現在、戸建て住宅に適切な改修を加え、長期に渡って使用しようとする動きも活発になりつつある。本年度は、戸建て住宅の外壁の地震時損傷リスクを算定し、その結果を日本建築学会計画系論文集に投稿した。

【橘高義典・松沢晃一】

片廊下型集合住宅の外壁の色彩特性が外観評価に及ぼす影響に関する研究

橘高義典，松沢晃一

近年、既存の住宅ストックをリノベーションする動きが高まってきているが、その対象となる20～40年前の集合住宅は現在のデザイン性、景観に配慮されたものと比べると必ずしも魅力的とは言えないものもある。そこで、現在、多くリノベーション対象となっている方廊下型集合住宅に着目し、手摺壁の配色構成が印象評価に及ぼす影響を検討した。その結果、色相、明度、彩度の組み合わせを変化させることで印象評価も変化するなど、住宅ストックの有効活用のための色彩計画のデータを得た。

簡易指示薬を利用したコンクリートの耐久性評価方法の検討

橘高義典，松沢晃一

コンクリートの劣化要因には、炭酸ガス、塩化物イオンなどがある。それらの劣化要因を簡便に、詳細に評価するために、それぞれのpH値、塩化物イオン濃度の違いにより呈色反応を示す指示薬を用い、炭酸ガス、塩化物イオン濃度の簡易評価手法の検討を行なった。その結果、炭酸ガスの影響に関しては、従来の評価手法と比較して、より詳細な評価が可能となる結果を得た。

ALCパネル壁面における蔬菜緑化方法の研究

橘高義典，松沢晃一

ヒートアイランド対策に有効な壁面緑化の効果とともに、より社会的に意義のある食糧としての用途が可能な蔬菜（野菜の総称）の生育が可能となる軽量コンクリートパネル（ALC）の穴径、深さの条件について検討を行った。その結果、葉菜の生育には穴径が、根

菜の生育には穴深さが深く影響することが明らかになった。また、ALC の多孔組織は保水効果を持つために土壌が常に適度な含水状態に保たれ、蔬菜の育成のためには好条件であることなどが明らかになった。

加熱の影響を受けたコンクリートの中性化に関する基礎的研究

松沢晃一，橘高義典

発電所施設，焼却施設など，長期に渡り 65°C前後の温度環境下にさらされる鉄筋コンクリート造構造物対象とし，それらが炭酸ガスの影響を受けた際の，中性化深さ，力学特性，微細構造について検討を行なった。その結果，高温環境にさらされたコンクリートの中性化深さは，高温環境にさらされていないものと比較して大きくなり，また，コンクリートの強度低下に影響を及ぼすとされている 50 μ m 以上の空隙が多くなることが確認された。

【角田誠】

公共建築ストックの有効活用に関する研究

角田 誠

公共施設では住民のニーズに対応するための継続的な建設活動が必要となるが，新たな施設の建設の一方で，余剰となった既存施設も数多く見られる。これらの既存施設の有効活用は，行政財産の維持・向上だけでなく，さらなる地域サービスの提供においても極めて重要な課題となる。本年度は東京都多摩市を対象に，施設の空間構成（ハード面）と運営管理（ソフト面）それぞれに着目した具体的な既存公共施設ストックマネジメントの手法を示し，それらを統合することで既存公共施設ストックマネジメントの運用条件や実用性の考察，およびシステムとしてのあり方を詳細に分析し，現実的に運用しうるマネジメントシステム構築のための方法論を導き出した。

コンバージョン設計プロセスに関する研究

角田 誠

ストック有効活用手法の一つであるコンバージョンは，既存建築物が設計条件に加味されるため，新築における設計プロセスに比べ，その内容に大きな相違がある。本年度は，地方自治体が所有する旧生産施設を公共施設へと転用して活用した事例を対象とし，既存の生産施設が持つ空間の特性を把握することで，旧生産施設の活用時における空間制約やそれに伴う工事内容の把握、施設活用事例の実態から公共施設転用時における活用の経緯や活用の方法を解明し、地方自治体が所有する旧生産施設を転用する際の活用計画プロセスを関与者の違いにより明らかにした。

建築再生学に関する研究

角田 誠

経済の低迷，人口の減少，資源の枯渇などの状況から，新たに建築を作る行為は限界を迎え，今まである建築に何らかの価値を付加し，再び使っていこうとする行為が数多く見られるようになった。従来までのスクラップアンドビルドと一線を画すこの考え方は，ストック社会に対し有効であることは理解しやすいが，その方法論は極めて多様である。特

に、価値の付加に対しては、現状復帰で良しとするもの、現状以上の向上を目指すものなど、価値の内容に左右されるものもあり、かつ両者を満たす建築的解決策が見い出せないこともある。

本年度は建築における様々な価値のうち経済価値と利用価値に着目し、有用な社会資産創出のための方策について研究を進めており、特に、ヴァリューアップを実現するための条件の解明とそれを実現するための法制度の改正について検討を進めた。

<建築構造>

【芳村学・中村孝也】

古い鉄筋コンクリート柱の耐震性に及ぼす袖壁の影響

芳村学, 中村孝也

古い RC 造中低層集合住宅の柱には、袖壁、腰壁などの二次壁が取り付くことが多いため、二次壁が付いた状態での構造性能を、大変形時（できれば崩壊）までについて把握しておくことが重要となる。そこで本研究では、1971 年以前の中低層集合住宅の一階を対象とした、袖壁付き柱及び袖壁なし柱の崩壊実験を行い、袖壁の有無による最大強度や変形能力、等の変化割合に着目して、袖壁付加の有利、不利について検討した。ついで、実験結果に基づく崩壊までの荷重変形関係を用いた地震応答解析により、この問題に対するより定量的な評価を試み、二次壁の影響割合に関する一応の答えを導いた。

定着型補強筋による鉄筋コンクリート柱のせん断補強効果に関する研究

芳村学, 中村孝也

既存の柱に建物外部から窄孔し、グラウトを注入後に定着型補強筋を挿入する工法を定着型補強筋工法という。この工法は、建物外部から狭小な場所での施工が可能であることから、道路との接地面が少ない縦長のビル、いわゆるペンシルビルなどに適用することが検討されている。本研究では、この工法の効果を検討するため、主筋、フープ筋に異形鉄筋を用いた柱の崩壊実験を行い、定着型補強筋による補強効果を把握することを目的とした。さらに、過去に行った主筋、フープ筋に丸鋼を用いた場合も含めて、定着型補強筋工法による全般的な補強効果について検討した。

擬似動的手法による古い鉄筋コンクリート柱の崩壊実験

中村孝也, 芳村学

既存の古い RC 建物の耐震性を精度良く評価するためには、その中に存在することが多い脆弱なせん断破壊型柱の崩壊性状を把握することが重要である。そこで、3 層鉄筋コンクリート建物を対象として、せん断破壊型柱が崩壊するまで加力する擬似動的実験を行い、その崩壊過程を検証した。実験変数は、柱の横補強筋比 $P_w=0.11\%$ と $.21\%$ 、建物の構造耐震指標 $I_s=0.41$ と 0.62 とした。また、3 種類の入力地震動を用いて、その違いにより応答性状に大きな相違が生じるのか否かを調べた。更に、応答解析による実験結果の再現を試み、せん断破壊後著しく荷重が低下する柱に対しての解析精度を検証した。

【北山和弘】

下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した RC 立体骨組の地震時挙動に関する実験研究

北山和宏

既存鉄筋コンクリート (RC) 建物における下階壁抜け柱の圧縮軸耐力不足の際には、軸崩壊防止のための補強を兼ねて連層鉄骨ブレースを当該柱に隣接して設置することがよく行われる。この場合、鉄骨ブレースと直交する方向の水平力により下階壁抜け柱の軸力が大きく変動する。また下階壁抜け柱は鉄骨ブレースからの軸力変動を受けるため、鉄骨ブレースによって下階壁抜け柱の軸崩壊を加速させることも生じ得る。そこで下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した RC 立体骨組試験体 1 体に対して、鉛直・水平二方向の計三方向の外力を与える静的実験を 2007 年度に実施した。

試験体は実物の約 1/4 スケールで、桁行方向の中央スパンを連層鉄骨ブレースで補強した 2 層 (階高 800mm) の RC 立体骨組である。桁行方向は 3 スパン、張間方向は 1 スパンで、スパン長はともに 1000mm である。張間方向には下階壁抜けフレームを設け、鉄骨ブレースが取り付く 1 層柱を下階壁抜け柱とした。実験では、中央スパンの連層鉄骨ブレースを含む RC 骨組が全体曲げ破壊した。本年度には、その結果を詳細に分析して以下の結論を得た。

- 1) 耐震改修設計指針 (日本建築防災協会) に基づく計算では、RC 付帯柱の引張り耐力によって連層鉄骨ブレースを含む部分架構の全体曲げ強度が決定した。実験でも付帯柱の全主筋が引張り降伏したが、面外曲げによる軸力変動と直交部材による抑え込み効果によって付帯柱に作用する圧縮軸力が増大し、脚部コンクリートの圧壊によって補強建物の水平強度が決定した。そのため、正負載荷時の水平強度はほぼ同じとなった。また、多くの境界梁端部において主筋の降伏が生じており、最大水平耐力の直後に全体崩壊機構が形成された。
- 2) 水平二方向載荷時には、下階壁抜け柱の最大圧縮軸力よりも、2 層の直交耐震壁が抑え込み効果を発揮する時に圧縮側となるブレース付帯柱の最大圧縮軸力の方が 5%(約 50 kN)大きくなった。付帯柱の最大圧縮軸力と補強建物の最大水平耐力とは同時期に生じたが、その時のコンクリート圧縮応力度は下階壁抜け RC 柱でコンクリート圧縮強度の 0.92 倍、もう一方のブレース付帯 RC 柱で 0.97 倍であり、共にコンクリート圧縮強度にほぼ達しており、付帯柱の圧壊によって補強建物の水平強度が決まったことと符合する。
- 3) 全体曲げ破壊において連層鉄骨ブレースの引張側付帯柱に耐震壁の抑え込み効果が発揮された時、抑え込み作用として耐震壁に生じる鉛直せん断力は、鉄骨ブレースの圧縮側付帯柱に圧縮軸力として伝達される。そのため、二方向水平力を受ける補強建物において連層鉄骨ブレースが全体曲げ破壊する場合には、ブレースに隣接する下階壁抜け柱だけでなく、他方のブレース付帯柱についても作用する圧縮軸力に注意すべきである。
- 4) 連層鉄骨ブレースを下階壁抜け柱に隣接して設置することによって、下階壁抜け柱のコンクリートが負担できなくなった圧縮軸力をブレース縦枠が代わりに負担し、水平耐力の急激な低下を防いだ。
- 5) 実験における限界変形は耐震診断基準 (日本建築防災協会) による終局変形よりも正方向載荷で 1.8 倍、負方向載荷で 2.2 倍大きかった。これより耐震診断基準は、下階壁抜け

柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した立体 RC 骨組が全体曲げ破壊する時の終局変形を安全に評価できる。

スリーブ継手で柱接合したプレキャスト PRC 骨組の耐震性能評価

北山和宏、見波 進

今まで当研究室では、プレキャストの通し柱にプレキャスト梁を PC 鋼材で圧着接合した PC 骨組の耐震性能について研究してきた。今年度はこれとは別に実際に建築される物件を想定して、プレキャスト梁を通し配置し、上下の柱をスリーブ継手で接合して一体にしたときの骨組の力学特性および耐震性能を実験によって検討する。実験では、実設計に沿って梁曲げ降伏が先行する試験体を検討対象とするとともに、このような構法によって組み立てられた外柱梁接合部パネルのせん断強度を調査するため、接合部パネルのせん断破壊が先行する試験体も計画した。試験体数は、平面十字形部分架構およびト形部分架構あわせて5体とした。本年度は試験体の設計および作製までを行い、実験は 2009 年度に実施する予定である。

プレストレスト鉄筋コンクリート十字形部分架構における梁部材のひずみ適合係数に関する研究

北山和宏

プレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 骨組を構成する梁部材の復元力特性には、PC 鋼材に沿った付着性状が大きな影響を与える。PRC 梁断面の曲げ耐力を求めるために、一般には平面保持を仮定した断面解析を行う。しかしながら丸鋼や鋼より線のような PC 鋼材に沿った付着は早期に劣化するため、平面保持の仮定から逸脱する。すなわち断面内の同位置のコンクリートひずみよりも、PC 鋼材のひずみは小さくなる。PC 鋼材に沿った付着劣化に起因するこのような現象を簡易に考慮するために、ひずみ適合係数 F 値が六車らによって提案されている。しかしひずみ適合係数 F 値の具体的な数値については、単純梁による実験によって検討されているだけで、実際の骨組内のように PC 鋼材が通し配筋された状態での検討は為されていない。そこで本研究では、PC 鋼材が通し配筋された十字形部分架構における梁部材の実験結果より、ひずみ適合係数 F 値を算出して、その妥当性を断面解析によって検証した。

検討対象としたのは梁曲げ破壊した平面十字形部分架構で、梁断面内のシース管内にグラウト材 (圧縮強度 65.1MPa) を注入したものとアンボンドとの2体である。PC 鋼材のひずみはひずみゲージによる測定値を用いた。同位置のコンクリートひずみは、梁危険断面から 50mm 離れた位置の梁上下面に取り付けた変位計の出力から、この局所ヒンジ領域の曲率分布を矩形と仮定して算出した。これらのひずみから各載荷ステップ間のひずみ増分をそれぞれ求め、ひずみ適合係数 F 値を算定した。その結果、グラウトを施して付着のある梁部材においては、PC 鋼材が降伏したときの F 値は 0.20 となった。これは単純梁を用いた実験で得られた数値 (0.4 から 0.6 程度) よりも相当に小さい。十字形部分架構における梁部材においては、通し配筋される PC 鋼材が柱梁接合部内で付着劣化を生じてすべるので、PC 鋼材のひずみが単純梁と比較して小さくなったためと考えられる。アンボンドの梁部材においては、実験では PC 鋼材は降伏しなかったが、算出したひずみ適合係

数 F 値は 0.03 に収束した。これもアンボンドの単純梁を用いた実験から得られた数値(0.1 から 0.2) よりも小さい。

こうして得られたひずみ適合係数 F 値を用いて断面解析を実施し、実験結果と比較した。最大耐力までは、解析が実験結果を良好に再現できることを確認した。

既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPC) 集合住宅の耐震診断と大規模改修に関する研究

北山和宏、高木次郎、見波 進、小泉雅生

現在、日本には約 110 万戸の既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPC) の集合住宅が存在しているが、それらの半数以上は築 30 年から 40 年を経過し、現代の多様な住様式に適合できないものも多い。そこでこれらの既存集合住宅に対して、居室面積の増減のみならず、一部に別用途の居室 (保育園、デイ・ケア・サービスセンター等) を用意するコンバージョンや、コレクティブ・ハウジングを可能とするような大規模改修といった要望が潜在的に存在する。

このような要望に応えるためには、耐震壁や床スラブに開口を設置することがほぼ必須である。このとき、現状の WPC 建物の耐震性能を把握するとともに、これらの構造的な改修を施した際の耐震性能をも正しく評価することが重要である。また、耐震壁に開口を設ければ耐震性能は明らかに低下するので、それを補うための耐震補強工法の開発とその性能評価も要求される。

そこで本年度は、実在する 5 階建て WPC 集合住宅の耐震二次診断を行い、現状の耐震性能を把握するとともに、張り間方向のプレキャスト版 (PC) 耐震壁に開口を設けたときの性能を耐震診断によって検討した。なお、耐震診断は「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」(第 2 版 3 刷、日本建築防災協会、2008 年) によって行った。また耐震性能判断のための閾値として、構造耐震判定指標 Iso を 0.6、終局限界時の累積強度指標と形状指標との積 CTU・SD を 0.45 と設定した。得られた知見を以下に示す。

1) 桁行方向について： 曲げ壁が支配的であり、1 階から 3 階までの構造耐震指標 Is 値は 0.8 程度でほぼ同じであった。終局限界における累積強度指標 CTU 値は 3 階で最小の 0.53 となるが、閾値より大きかった。1 階のみ強度抵抗型で、2 階以上では靱性指標 F 値が 1.5 のときに Is 値が決まっており、若干の靱性に期待する。

2) 張り間方向について： 構造耐震指標 Is 値は全階にわたって 1.2 以上あり、F=1.0 のときの強度指標 CT 値 (外力分布による補正を施した強度を当該階よりも上の建物重量で除したもの) も 0.8 以上あることから、十分な耐震性能を保有することを確認した。

3) 張り間方向の耐震壁 2 枚に開口を設けた場合には、1 階の Is 値が 0.93 と最も小さくなる。2 階から 4 階では強度が 7% 程度低下して、Is 値は現状の 80% 程度に低下して 1.00 から 1.27 となるが、いずれも Iso=0.6 を大きく上回った。

4) 開口を新設した場合に、PC 耐震壁の曲げ強度およびせん断強度の耐震診断指針による評価式の物理的意味が失われることがある。当該指針は、規格的な PC 版 (例えば、セッティング・ベースは PC 版の両端に存在する) を対象とした診断手法を提示しているため、既存の PC 版に開口を設けた途端にこの暗黙のルールから逸脱するためである。

5) そこで、水平接合部（セッティング・ベース）の接合筋が引張に有効な曲げ補強筋となるように、壁の長さを当該指針による評価よりも短く仮定して、曲げ強度およびせん断強度を再評価した。その結果、当該指針に従うよりも、各強度が大きく評価される場合があることを指摘した。

日本における初期鉄筋コンクリート建物の構造に関する研究

北山和宏

日本において建物の全てを鉄筋コンクリート造で構築した建物は、遠藤於菟設計の三井物産会社横浜支店（1911年竣工、地上4階、地下1階）であると言われている。そこで遠藤於菟が残した配筋図や論文をもとにして、当時のRC建物の構造の様態を調査した。

柱や梁部材の配筋は、基本的には Hennebique 式であるが、遠藤於菟独自の工夫と思われる配筋詳細が垣間みられる。例えば梁のスターラップの一部は、Hennebique 式の標準である上下の主筋1本づつを帯鉄で結ぶ形態ではなく、断面全体にわたってU字形で配されており、現在一般に用いられる閉鎖型の形状への過渡的な状況にある。また柱（470mm角の正方形断面）のフープは、Hennebique 式では鉄板を用いるが、ここでは直径11.7mmの鋼製ワイアを470mmピッチで4隅の柱主筋に巻き付けていた。梁の主筋には直径38mmの丸鋼が使われ、柱の主筋には22mmから38mmの丸鋼が使われた。梁のせん断補強筋比は0.16%であり、現行基準の最小配筋量である0.2%より若干少ない程度であったが、柱のせん断補強筋比は0.10%であり相当に小さい。また柱の全主筋比は1階では2.1%あったが、3階および4階では0.7%であり、現行基準の最小量である0.8%未満であった。梁部材にはハンチが付けられており、その部分には補強筋が配された。また Hennebique 式の特徴である折り曲げ主筋が梁部材に用いられていたことから、梁部材のせん断強度は相当程度に確保されたと考えられる。これに対して、柱部材のせん断強度を確保するための配慮が為された形跡はなく、20世紀の最初の10年においては、地震動による水平力に対するRC建物の抵抗機構については未知であり、水平力に対する設計も為されなかった、と判断できるだろう。

梁曲げ降伏後に接合部せん断破壊する PRC および PC 十字形部分架構の耐震性能評価

北山和宏

プレストレスト鉄筋コンクリート構造(以下 PRC 構造)およびプレストレストコンクリート構造(以下 PC 構造)の梁曲げ降伏後に接合部せん断破壊する十字形部分架構を対象として、柱梁接合部の入力せん断力の算定法および接合部せん断余裕度と変形性能との関係について、当研究室で過去に実施した実験の結果を用いて検討した。得られた主要な結論を以下に示す。

1) 梁断面の引張領域内の引張合力とコンクリート圧縮合力との距離 J_{be} を、 $0.8D$ (ここで、 D は梁せい) で一定値として、梁端モーメントを距離 J_{be} で除して得た引張合力より、柱梁接合部入力せん断力を求めたところ、梁鋼材引張力から直接求めた接合部入力せん断力と最大層せん断力までは良好に一致した。

2) 接合部パネルの損傷が進展するとともに、接合部パネル内の圧縮域が拡大し、それにともない梁危険断面の圧縮域が増大したため、引張領域内にある引張合力と圧縮合力

との距離 J_{be} は減少した。すなわち、十字形部分架構の支配的な破壊が梁曲げ降伏から柱梁接合部せん断破壊に遷移してからは、距離 J_{be} に一定値を使用することは適さない。

3) 接合部せん断余裕度と十字形部分架構の塑性率との関係を RC 構造と比較すると、PRC および PC 構造の変形性能は 39~48%劣っていた。これはプレストレスにより梁に圧縮軸力が生じているためと考える。また本研究で扱った試験体のコンクリート強度は 56~78MPa と高強度であったため、最大耐力以降の接合部パネルコンクリートの抵抗が RC 構造の場合と比べて早期に低下したことも考えられる。

【高木次郎】

既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPC) 集合住宅の耐震壁の新設開口補強に関する研究

高木次郎、北山和宏、見波 進、小泉雅生

本研究では、既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPC) 集合住宅の耐震壁に開口を新設した場合の補強計画の立案とその効果の実験的検証を行う。既存 WPC 集合住宅の改修計画においては、現代の多様な生活ニーズに対応するため、既存プレキャスト (PCa) コンクリート耐震壁板に開口を設けることを含めたプラン変更を計画している。WPC 構造における耐震壁は、PCa 耐震壁板に鋼板による接合部を設けておき、その鋼板同士を現場溶接することで組み立てられる (この接合部分のことをセッティングベース (SB) と呼んでいる)。PCa 耐震壁板には通常、上辺と下辺に 2 か所ずつの SB が用意されており、地震時には、SB が耐震壁の負担するせん断力を伝達し、鉛直方向への引張力を負担することで、壁の転倒モーメントに抵抗する。既存壁に開口を設けた場合、開口脇に残された壁はそれぞれ独立した 1 枚の耐震壁とみなされるが、それぞれの上辺下辺には 1 か所ずつの SB しか存在しないことになり、壁の転倒モーメントに抵抗できなくなる。また、開口上部の壁は梁として機能することが期待されるが、鉄筋不足により十分な耐力が確保できない。このような状況を受けて、既存 WPC 耐震壁に開口を設けた場合の補強計画として、(1)SB に準じた壁の接合部の増設、および(2)開口上部の梁の補強を基本的な方針とした補強案を考案した。補強計画は、各階同一箇所に開口を設ける場合 (連層タイプ) と設けない場合 (単層タイプ) それぞれの場合について、鉄筋コンクリート (RC) および鉄骨 (S) を主体とした案とした (合計 4 通りの組み合わせになる)。実験は、これら 4 通りの補強案に、開口を設けない場合、開口を設けて無補強の場合 (連層タイプと単層タイプ) の 3 通りを加えて、合計 7 体の 1/2 スケールの試験体を作成して実施する計画としている。2008 年度は、主として試験体作成までを行い、2009 年度に加力して効果を確認する計画としている。

【見波進】

建築用薄板鋼材溶接接合部の力学性状に関する研究

見波 進

鋼構造建築物の溶接接合部の非破壊検査は、日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」に基づき行われている。しかし、この規準の適用範囲は板厚 6mm 以上である。本研究の目的は、建築用薄板鋼材溶接接合部に適用できる超音波試験法を開発することである。溶接欠陥を持つ試験体をアーク溶接によって作製し、超音波探傷試験、放射

線透過試験および引張試験を行い、接合部耐力と溶接欠陥率の関係が得られた。

建築構造用鋼材の脆性破壊に関する研究

見波 進

建築鋼構造物の柱梁溶接接合において、脆性破壊は複数の破壊発生点（例えば、スカラップ、エンドタブ、溶接金属、熱影響部）から起こる可能性がある。溶接接合部のような複数の素材より構成される部位の脆性破壊をローカルクライテリアで評価するための基礎検討として、2種類の靱性の異なる鋼材の切り欠きを有する鋼材の引張試験および有限要素法解析を行い、材料の靱性および切り欠き長さが脆性破壊に及ぼす影響および2種類の鋼材が組み合わさる場合の破壊性状を検討した。

【山村一繁】

高層鉄筋コンクリート造建物の強震観測

山村一繁

都内の高層鉄筋コンクリート造分譲マンションにおいて、強震観測を開始した。この建物は前年度に常時微動測定によりその振動特性を評価したものである。さらに耐震診断によりその耐震性能を評価している。強震計は一階と屋上階に設置しており、頂部の応答値の評価だけでなく、伝達関数として振動特性を評価することが可能となっている。本年度は、4地震のデータを得ることができた。震度4以上のものはなかったが、微少な地震による応答特性は、常時微動測定による応答特性とよく対応するものであった。

積載荷重に関する説明性の検討

山村一繁

設計用積載荷重は等価等分布荷重として与えられているため、実際の使用状況との対応を説明することが難しい。また、目で見たイメージをどう表現するか、コストと性能との対応はどうか、CASBEE指標をどう考えることができるかなど、多面的に説明手法を検討する必要がある。本年度はその第一段階として、特性と積載物イメージに関する検討を行った。さらに、コンピュータグラフィックスを用いた、リアルタイム応力表示システムの可能性を検討した。

< 建築環境 >

【市川憲良】

建物内における最適給水システム構築のための検討

市川 憲良

受水槽方式は、中規模以上の建物に採用されてきた。しかし、10数年前から、直結増圧給水方式が中規模程度の建物に導入されるようになった。また、4階程度の建物に対しては、直結直圧給水方式も採用されつつある。両給水方式は、多くの利点を有しているが、今後、検討しなければならない問題点は多くある。本年度は、集合住宅を中心とした計画瞬時流量、給水システム、水栓類の評価等について検討した。これらの成果は日本建築学

会、空気調和衛生工学会、CIB-W62 国際シンポジウムなどへ発表した。

循環式浴槽におけるレジオネラ感染防止に関する研究

市川 憲良 野知 啓子(関東学院大学)

レジオネラ感染事故は、循環式浴槽システムを採用している施設で多く発生している。発生の原因として、浴槽水のろ過方法と消毒方法をはじめ、システム的な構造に対して早急に検討する必要があることが指摘されている。本年度は、浴槽内の有機汚濁物質の除去について検討した。これらの成果は空気調和衛生工学会などへ発表した。

水資源の有効利用に関する研究

市川 憲良, 中山 哲士

我が国はアジアモンスーンの東端に位置しており、年間平均降水量は約 1,700mm と世界でも降水量が多い。しかし、これまで多くの地域で渇水や水不足を経験し、取水制限や給水制限が行われてきた。その程度は地域によりかなりの差異がある。本研究は、地域特性を反映させた水資源の有効な利用モデルを構築することを目的にしている。本年度は日本の降水量についてアメダス気象データを用いた地域別降水量について検討した。これらの成果は空気調和衛生工学会などへ発表した。

【須永修通・深澤たまき】

快適な環境配慮型・自然エネルギー利用建築に関する研究

地球環境保全のためには、建築分野では省エネルギーとともに自然エネルギーの活用が不可欠である。また、それらを考慮して設計された省エネ・自然エネルギー利用建築を広く普及させるためには、その実際の性能を明らかにすること、また、地球環境への影響や室内環境の快適性等を考慮した総合的な評価手法を整備する必要がある。

須永研究室では、『省エネ・自然エネルギー利用建築』と『人体の温熱快適性』を主なテーマとして、建築的要素の工夫によるパッシブデザイン手法、太陽熱などの自然エネルギー利用による室内気候調整、それらに関連する建築部材の開発、実在する環境共生建築・住宅の性能評価、並びに、室内温熱環境の評価方法などに関する研究を継続的に行っている。本年度は、これらに関して以下の研究・活動を行った。各々概要を示す。

1. 中国の住宅建築のサステイナブル化 (中国 西北工業大学 との国際交流協定による)

平成 19 年に締結した西北工業大学 機械土木建築学研究科と首都大学東京 都市環境科学研究科との国際学術交流協定 (主テーマ「持続可能な建築・都市の研究」) に基づき、本年度は東京都から「中国の住宅建築におけるサステイナブル化の早期推進」をテーマとする予算を得て、夏季と冬季の現地実測調査を行い、また、中国側の担当者を招聘して検討した。気候と地域性から陝西省を北部(黄土高原)、中部(盆地的地形)、南部(山岳地形)に分けて、実測および詳細シミュレーションにより、現状と改善手法について検討することとした。北部の新ヤオトン住宅および中部の標準的なレンガ造住宅を実測し、また、中部の住宅を対象にシミュレーションを行った。

2. 学校建築のエコスクール化

a) アンケート調査：昨年行った日本全国のエコスクール認定校へのアンケート調査(約

150校分)の解析結果を日本建築学会大会で発表した。また、その結果の一部を学校建築専門雑誌に紹介した。

b) エコスクールの実測評価：外断熱，水平ルーバー庇，太陽熱暖房などの手法を採り入れて設計され，平成20年4月に開校した目黒中央中学校について実測を行った。温熱環境，光環境およびエネルギー消費量の測定を行い，各種手法の効果について検討した。

c) 夏季の暑さ対策の効果：普通教室に冷房のついていない東京および横浜の学校を対象に，夏季の暑さ対策について，実験的な実測を行い検討した。中庇，簾による日射遮蔽効果，換気ガラリ，換気扇，自然通風によるナイトページ効果について検討した。校舎の熱容量の影響が非常に大きいこと，換気・通風手法の中では通風の排熱量が大きいこと，などを明らかにした。

d) 学校建築関係法規：学校建築に関係する関係法規，補助金，東京都内および横浜市の基本設計プランの現状について調査した。

e) 海外のエコスクール調査：ドイツとイギリスの最新のエコスクールについて調査した。ドイツでは，著名な建築家でシュツットガルト大学の Peter Hübner 教授に，エコスクールの考え方や設計手法についてヒアリングした。

3. 断熱内戸による熱環境改善効果

断熱内戸は高性能断熱材を用いた断熱戸を窓の内側に設置するもので，省エネ性，快適性向上の効果が高いことを昨年までに明らかにした。今年度は，事務所建築用の断熱内戸の試作と実施実験を行った。住宅同様，断熱の効果は非常に大きいことその他，表面仕上材や取付材，および，使用者の意識について多くの知見を得た。

4. 住宅の熱容量が室内温熱環境に与える影響

住宅における躯体の熱容量が室内温熱環境に与える影響について，実大実験棟を用いて検討した。天井と床が木造，ALC造，RC造の3つの実験室を用いて，夏季は通風，日除け，冬季は窓の断熱などの建築的な条件と設定温度などの空調の運転条件を変えて実験した。また，シミュレーションによっても検討した。

5. 環境配慮型建築の性能評価手法

居住者の温熱快適性に基づく評価方法に関して，室内表面温度が均一でない場合の室内環境と被験者の評価を得るため，上記4の実験中に，被験者実験を行った。実験は，夏季(延べ175名)と冬季(延べ163名)に行い，合計338名分のデータを得た。

6. 緩衝空間の設置による室内環境改善

建築計画的に緩衝空間を設置することについて，緩衝空間内の温熱環境も吟味する必要性を示し，また，住宅内における緩衝空間の方位，緩衝空間の窓面積，窓および壁の断熱性能などが，居室および緩衝空間の温熱環境に及ぼす影響について，シミュレーションにより明らかにした。

7. 集合住宅の住まい方とライフサイクル評価

集合住宅において，居住者の環境調整行動が熱負荷に与える影響について，ライフステージに沿ってシミュレーションにより検討し，環境調整行動を行う場合は，行わない場合に比べ，最大40%削減されることなどを示した。

【永田明寛】

建築部位の熱性能評価に関する研究

永田 明寛

現在、地球温暖化防止のため省エネルギーに対してより一層の取組みが求められているが、住宅に関しては、断熱性能向上が課題の一つとなっている。このような状況の中で、新築建物の場合は性能検証（コミッションング）の立場から、また、既存建物の場合は適切な性能評価に基づくストック改善の立場から、建築部位の熱性能を現場で実測評価することに対する要望は高い。本研究は、大量のストックを有する在来木造構法の住宅外壁を主たるターゲットとし、その断熱性能を現場実測により評価する手法の開発を行うものである。今年度は、昨年度開発した壁内の断熱仕様探査用材料識別センサー（特願2008-235075）及び壁内目視観測用ニードルスコープの有効性について、種々の繊維系断熱材サンプルを用いて検討し、以下の結論を得た。①どちらの方法でも断熱材位置・厚さ測定は問題なく行うことができる、②材料識別センサーでは、断熱材種類の識別が困難な場合があり改良が必要である、③ニードルスコープによる観測画像により概ね断熱材種類の識別が可能である。

戸建住宅地のエクステリアデザインと環境に関する研究

永田 明寛

建築と道路などとの境界に存在する塀や垣、植栽、駐車場などは、建物内の採光・眺望や通風などの環境に及ぼす影響が大きいにも関わらず、これまであまりこれらを意識してデザインされていない。また、建物外においては景観面だけではなく、風の道の確保など都市環境への配慮から、塀の高さなどについて地区計画が定められることが増えてきているが、その定量的評価はほとんどされていない。本研究は、エクステリアデザインが建物内外環境に与える影響を定量的に把握することを目的としている。今年度は基礎資料収集のため、いくつかの戸建住宅地を対象に、塀の存在率や高さ、外壁後退距離などについて現地調査を実施した。あわせて、該当地域の地区計画などについても調査している。その結果、塀の高さに関しては概ね地区計画どおりに設けられているものの、塀の存在率や外壁後退距離については、地形的要因や道路幅員などによる影響がかなりみられることが明らかになった。

【中山哲士】

都市気候・気象データ特性に関する研究

中山哲士，饗庭伸

都市気候は都市の形態、土地被覆、産業活動その他種々の要因によって形成されている。実際の市街地においても都市気温分布に関する実測調査を行い、その状況を明らかにした。平成20年度は19年度に引き続き国分寺市における都市計画道路予定地周辺の夏期早朝および日中、冬期日中の外気温分布測定を実施した。

着衣による熱環境調整機構に関する研究

中山哲士

着衣量は一般的には熱抵抗であるクロ値で評価されることが多いが、着衣の着方、ある

いは周辺環境によりその熱的性能は変化する。本研究では人体周辺の気流が着衣の繊維変形を引き起こすことによる熱性能の変化を実験により求めた。

<戦略研究センター>

【青木茂】

福岡県住宅供給公社の所有する団地の再生の為の計画の検討を行った。再生プログラムを大きく3つに体系かし、出版物としてまとめて3月末日に発行を予定している。

京都府八幡市の進める「環境省の学校エコ改修と環境教育事業」のモデル校に選定された市立男山第二中学校の“エコ改修”の実施設計を行ったが、八幡市の事情により、計画が中止となった。設計では、耐震性能の向上や環境に配慮した工夫による室内環境の改善などを図った。この計画については、『八幡市立男山第二中学校エコ改修事業 中間報告』（発行：八幡市教育委員会教育委員会 企画・編集：株式会社ユーディ・シー）に掲載されている。

<都市空間システム>

【中林一樹】

都市防災と復興に関する計画論的研究

中林一樹，饗庭 伸，市古太郎，吉川 仁（特任教授），福留邦洋（新潟大），照本清峰（人と防災未来センター），佐藤慶一（東京大学社会科学研究所）

主に地震災害を対象として、阪神・淡路大震災，トルコ・マルマラ地震，台湾集集地震，中越沖地震，四川大震災，岩手・宮城内陸地震などにおける被災地及び被災者の復興に関する実態調査とともに，首都東京及び八王子市，葛飾区などを主たる対象として事前復興対策に関する研究を進めてきた。とくにトルコについては科学研究費基盤研究(B)の研究代表者として，葛飾区・八王子市については受託研究として，首都東京については提案公募研究(文部科学省)の分担代表者として研究を推進した。

地域主体のまちづくりの推進方策とまちづくり条例に関する研究

中林一樹

町田市，多摩市，大和市における地域主体のまちづくり活動の実態分析と，それに基づくまちづくり推進のための条例などの仕組みとその運営に関する研究を継続的に進めてきた。

自治体と中小企業のBCPに関する研究

中林一樹

地震災害時を念頭に置いた，基礎自治体，地域に密着する中小企業を対象とするBCP（業務継続計画）のあり方に関する研究を推進した。自治体に関しては東京都市町村調査会都連携し，中小企業に関してはエンジニアリング推進協議会，下水道継続計画については下

水道新技術推進機構とともに、研究を推進した。

【玉川英則】

コンパクトシティ形成のための概念と方法に関する研究

玉川英則，伊藤史子，市古太郎，大口敬（都市基盤工学専攻），吉川徹（建築学専攻），鈴木勉（筑波大学），佐土原聡（横浜国立大学）

コンパクトな都市形成に向けて種々の研究を行った。基礎理論の整理，現実の都市内でのコンパクト性の計測，エネルギー消費から見たコンパクトな都市のあり方，コンパクトな都市行政単位の提示，都市防災計画とコンパクト性の関連等の切り口で考察を行った。これらの成果をまとめた学術図書，『コンパクトシティ再考』を2008年11月に出版した。

都市空間モデルの基礎的特性に関する研究

玉川英則

グラヴィティ型のモデルにより施設あるいは都市の圏域が決定されるという設定には，いかなるインプリケーションが潜んでいるのかを考察している。1次元にて得られた結果——距離抵抗係数値の減少により一極集中・増加により分散が進むという大局的傾向と，施設の位置取りによってはそれに反する現象が起こりえるという事実——が2次元平面においても妥当であるかどうかについて，理論及びシミュレーションによる検討を継続中である。

【伊藤史子】

住宅需要と居住地選択に関する研究

伊藤史子

本研究では，多様化する住宅需要の具体データの詳細な分析を通じて転居行動における住居・居住地選択の要因を明らかにした。女性の消費生活に関するパネルデータ（（財）家計経済研究所）を用いて，ライフスタイル・生活時間・生活意識・居住環境に関する項目が相互にどのように影響しているかを明らかにした。

不動産情報のあり方に関する研究

伊藤史子

我が国では住生活基本法が施行され，住宅市場活用の観点から不動産情報を適切に消費者へ提供する必要性は大きくなっている。今年度は，不動産情報提供の現状分析の一部として，不動産投資や取引で用いられる不動産用語の概念整理と分析を行うことにより不動産情報提供要件に関する示唆を得た。本研究は他大学研究者との共同研究（科研）である。

公共プロジェクトの経済評価に関する研究

伊藤史子

本研究では，都市における様々なプロジェクトについて経済的な手法で評価を試みる実証分析をいくつか行った。新潟市政令市移行に伴う区割り設定代替案について住民の旅行費用に基づき分析した。東アジアにおける酸性雨対策の費用便益について分析した。いず

れもプロジェクト実施における代替案選択のあり方に関する示唆を得た。

【市古太郎】

首都直下地震リスク軽減化のための地域計画策定技術の研究

市古太郎

首都直下地震の被害は建物全壊全焼戸数で見れば阪神淡路の約5倍（内閣府M7.3，風速15m）と想定されている。死者や負傷者といった直接被害だけでなく，住宅や生活環境といった間接被害についても被害軽減化戦略を立て，事前の取り組みに反映していくことが不可欠である。そのため本研究は，都市計画の視点から，地区まちづくり計画技術を構築する。

平成20年度は前年度に引き続き，東京都都市整備局が主催する「都市復興図上訓練」に運営協力し，計画策定手法についての検証をおこなった。特に，これまで検討してきた地区レベルの計画策定技術ではなく，区市自治体スケールの「都市復興基本計画」について訓練手法を構築し，試行した。

事前復興論に基づく震災復興まちづくり模擬訓練手法の開発

市古太郎，中林一樹

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして，「事前復興」という視点から間接被害を軽減化するため，住民，行政，専門家の訓練手法を開発する。

平成20年度は，葛飾区堀切地区および八王子市諏訪町周辺地区で震災復興まちづくり模擬訓練の実施に従事し，地域で復興について話し合う「地域復興協議会」が立ち上がったという条件において，行政が地域復興協議会に対して示す「復興まちづくり方針案」を行政職員が作成するにあたっての技術と計画内容のあり方について技術支援を通して検討を行った。

またこれまでの成果を都市科学叢書2『コンパクトシティ再考』に「都市防災とコンパクトシティ」としてとりまとめた。

東京圏郊外におけるリスク認知社会学習プログラムと地域を単位とした対抗システムに関する研究

市古太郎

犯罪，屋外事故など，生活空間におけるリスク研究は課題解決型で取り組む必要がある。本研究では，自らの空間に潜在する危険性についての主体的なグループ学習を支援し，対抗する活動能力を向上させる方法論と支援制度システムに関する安全安心まちづくりに関する研究である。

平成20年度は，先進事例の現地調査を行った。岐阜県岐阜市のマザービレッジ，厚木市の番屋について現地調査とインタビューを実施した。

<都市社会システム>

【星 旦二】

都市の健康水準改善と維持要因に関する研究

星 旦二

都市の健康水準とその規定要因を研究してきた。特に、高齢者の健康維持要因追跡研究として、都市 1.3 万人、地域 2.2 万人、合計 3.5 万人の生存追跡研究を実施し、健康三要素間の因果関係を世界で初めて明確にした。

都市壮年約五千人の生存と死亡を五年間追跡し、健康維持習慣として、家族と食事する、食欲がある、単身世代ではない、やせていない、睡眠時間が九時間以上ではない、生活の中で身体を動かす、仕事のストレスがある、親しく相談できる人がいる、楽しみ生きがいがあるとともに主観的健康感が高いことを明確にした。

東京都教育庁との協働調査を実施し、小学中学高校生とその保護者二万人の調査を実施してデータ連結し、子供らの生活習慣形成のためには、家族で食事や運動を共にすることが、特に小学生で重要であることが明らかにされた。その他、高齢者の健康維持推進のための日韓協働研究として、韓国亜州医科大学と実施した。

【羽貝正美】

近未来の地方制度・都市制度のあり方を視野にいれた日本の政府間関係と自治体ガバナンスに関する研究

羽貝正美

現代の社会経済環境の大きな変容過程を前提に地方政府の存立条件とその社会的機能について、近未来の地方制度、都市制度のあり方を視野にいれながら研究を深めた。

フランスにおける基礎自治体と自治体間協力関係に関する研究

羽貝正美

自治体再編の進むわが国とは対照的に小規模・零細な基礎自治体が多数残存するフランスの地方制度を手がかりに、基礎自治体の政治的機能(合意形成機能)と公共サービス提供機能のあり方について研究を深めた。

【竹宮健司】

精神科患者の社会復帰施設支援態勢・環境に関する研究

竹宮健司

2006 年度から施行された障害者自立支援法では、精神病院の基準病床削減目標を掲げているが、現実には社会復帰支援施設が少なく、また支援態勢も充分とはいえない。本研究では、先駆的な実践を行っている医療法人を対象に継続的に精神科医療施設の受療行動(病棟移動・転院等)および病棟の利用実態を詳細に把握した(2007 年～2008 年)。また、精神科の病院を退院後に利用するデイケア・デイナイトケアの利用状況を把握し、これからの社会復帰支援態勢・環境の基礎的知見を得ることを目的としたケーススタディを行った。

がん診療連携拠点病院の建築計画に関する研究

竹宮健司

2007 年に施行されたがん対策基本法に基づく「がん対策推進計画」では、積極的な治療

の推進とともに、治療の初期段階からの緩和ケアの実施が中心的課題として掲げられ、がん診療連携拠点病院の整備が進められている。しかし、こうした方針に対応した医療施設の空間要件や整備指針に関する知見は乏しい。本研究では、がん診療連携拠点病院における先駆的な緩和ケア実践事例の現地調査をもとに新たながん医療の方針に対応した施設環境整備に関する検討を行った。

高齢者・障害者のための居住環境整備に関する研究

竹宮健司

高齢者や障害者が住み慣れた地域や居住施設に住み続けられるためには、適切な支援サービスの提供とともに居住環境の整備も重要な要因となる。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- (1) 高齢者専用賃貸住宅整備の動向とその共有空間の利用特性
- (2) 知的障害者の支援態勢からみた共同生活環境

【饗庭 伸】

都市計画の地方分権に関する研究

饗庭 伸

都市計画の地方分権の実態について、住民主体の都市計画の事例調査を行い、成果を学術図書として発表した。また、自治体議会改革の状況についての全国調査、議員による都市計画の立法事例の調査を行い、成果を図書として発表した。

都市建築ストック活用型都市計画に関する研究

饗庭 伸

これまでの都市計画は都市建築ストックのスクラップアンドビルドを前提としているが、ストックの長期間にわたる利活用を前提とした都市計画に変化させる必要がある。このような問題意識のもと、東京郊外の八王子市を対象にして、課税台帳データをもとに都市建築ストックの集積状況を分析し、その地域特性を考察した。

東アジア諸国のまちづくりの歴史に関する比較研究

饗庭 伸

台湾、韓国、日本の3カ国を対象に、戦後のまちづくり(台湾では「社区营造」、韓国では「マウルマンドゥルギ」)の歴史の比較研究を行った。各国の研究者と共同でソウル(10月)の国際ワークショップを開催し、調査や研究発表などを行った。

都市の縮退に関する研究

饗庭 伸

人口減少社会に入り、人口増加にともなって膨張した都市が縮退していくと言われている。本研究では首都圏の郊外部を対象に、縮退時代に入った都市の実態を調査し、都市の縮退時における都市デザイン手法についてケーススタディを行った。成果を専門誌に発表した。

【山本薫子】

都市インナーエリアの社会的変容，再編に関する都市社会学的研究

山本薫子

横浜・寿町地区および広島県呉市広地区をフィールドとして，都市インナーエリア地域の社会構造変容に関する研究を行う。2 地域での共通点は①産業構造の変容，②グローバル化にともなう外国人住民，外国人労働者の流入と増加，③行政や NPO らが主導する「まちづくり」施策の実施，である。これらが地域コミュニティの変容と再編にどのように影響し，その結果，住民の社会的状況がどのように変化しているかを明らかにすることが研究課題である。2008 年には単著『横浜・寿町と外国人ーグローバル化する大都市インナーエリア』（福村書店）を出版した。

3. 研究成果リスト

<建築計画・都市計画>

【上野淳・松本真澄】

1. 審査論文

近藤樹理, 山田あすか, 松本真澄, 上野淳

多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究

日本建築学会計画系論文集 : No. 628, 2008. 06. : pp1251-1258.

寺島修康, 栗田実, 上野淳

小規模小学校における計画・デザイン提案とPOE調査による検証 一九十九小学校におけるケーススタディー : : 日本建築学会技術報告集, No. 27 : 2008. 06. : pp229-234.

金子公亮, 倉斗綾子, 上野淳

学校運営と学習・生活活動の実態からみた小中一貫校の建築計画的考察 : : 日本建築学会技術報告集, No. 27 : 2008. 06. : pp235-240.

山田あすか, 濱洋子, 上野淳

小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける空間構成と入居者の生活様態の関係 : : 日本建築学会計画系論文集 : No. 629, 2008. 07. : pp1477-1484.

井村理恵, 山田あすか, 松本真澄, 上野淳

通いを基本とする小規模高齢者介護施設の現状, 利用者の滞在様態と空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集 : No. 632, 2008. 10. : pp2091-2098.

寺島修康, 栗田実, 上野淳

学校運営と生徒の学習・生活展開からみた統合新設・総合学科高校のPOE検証 一横須賀総合高等学校のケーススタディー、日本建築学会技術報告集, No. 28 : 2008. 10. : pp529-534.

清原一紀, 松本真澄, 上野淳

多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と現状に関する考察、日本建築学会技術報告集, No. 28 : 2008. 10. : pp561-566.

2. 口頭発表

倉斗綾子・上野淳

学校建築の転用・改修設計のモデル開発研究 公立学校施設の転用・改修プロジェクトを通して、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 45 : 2008. 09.

川上剛・川原桃子・倉斗綾子・上野淳

統合新設の教科教室型中学校における学校運営の実態 下関市立豊北中学校をケーススタディーとしたPOE調査 その1、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊, p. 127:2008. 09.

川原桃子・倉斗綾子・上野淳・川上剛

統合新設の教科教室型中学校における生徒・教師の評価・意識 下関市立豊北中学校をケーススタディーとしたPOE調査 その2、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊, p. 129 : 2008. 09.

樋沼綾子・上野淳・山田あすか

幼保一体型施設における園児のなじみの過程 幼保一体型施設の建築計画に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊, p. 203 : 2008. 09.

國上佳代・上野淳・松本真澄

月齢別の発育段階からみた乳幼児の保育環境に関する考察、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊, p. 209 : 2008. 09.

菱田佳奈・上野淳・松本真澄

小規模高齢者支援施設における人間集合の形からみたサポート環境の在り方に関する考察、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊, p. 381 : 2008. 09.

濱洋子・鄭ソイ・上野淳

多摩市いきがいデイサービス利用者の地域生活の様態 在宅自立高齢者を支える地域支援環境の整備条件に関する研究 その1、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2分冊, p. 1 : 2008. 09.

鄭ソイ・濱洋子・上野淳

多摩市いきがいデイサービス利用者の地域生活の類型と地域支援環境の条件 在宅自立高齢者を支える地域支援環境の整備条件に関する研究 (その2)、日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2分冊, p. 3 : 2008. 09.

松本真澄・清原一紀・上野淳

多摩ニュータウン諏訪・永山商店街の変化過程と商店主の意向調査 多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と現状に関する考察 1、日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1分冊, p. 41 : 2008. 09.

清原一紀・松本真澄・上野淳

住区住民による近隣センター商店街の利用と購買行動の実態 多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と現状に関する考察 2、日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1分冊, p. 43 : 2008. 09.

松井溪, 大月敏雄, 松本真澄, 深見かほり

日本住宅公団阿佐ヶ谷住宅の管理・運営の実態に関する考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 1355-1356, 2008.

3. その他

3-2. 研究報告

松本真澄

風と緑と光の田園住宅 失われようとしている集合住宅の名作— 公団阿佐ヶ谷住宅, 東京大学グローバル COE プログラム都市空間の持続再生学の展開東京研究シリーズ 1, pp. 7-12 (1-1, 1-2, 1-3 執筆担当), 2009.

【吉川徹】

1. 審査論文

中林綾, 吉川徹

映画から抽出されたニュータウンらしい景観, 多摩ニュータウン研究, No.10, pp. 56-67, 2008

2. 口頭発表

Kazuki Yanagisawa and Tohru Yoshikawa,

Public Service Reallocation Method from the Viewpoint of Functional Layout, Proceedings of the 7th International Symposium on Architectural Interchange in Asia, Vol. 1, pp.275-279, 2008

内原英貴, 吉川徹,

地方都市における人口社会増減の分析と評価—浜松市と金沢市を例として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.401-402, 2008

中沢孝之, 吉川徹,

小地域データにもとづく地形の自転車移動への影響分析 東京都多摩市の通勤・通学を例として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.439-440, 2008

羽賀正和, 吉川徹,

微地形が小売り商店立地分布に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.793-794, 2008

吉川徹,

メッシュ土地利用データを用いた隣接関係分析における近傍メッシュの重み付けのシミュレーション分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.917-918, 2008

柳沢一希, 吉川徹,
公共施設予約システムの普及状況, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊,
pp.923-924, 2008

3. その他

3-1. 専門書

Tohru YOSHIKAWA,
De nouvelles approches de la rénovation urbaine dans les aires métropolitaines.
Enseignements d'un workshop à Tokyo, Sous la direction de Nicolas Buchod, La ville
stratégique, Certu, pp. 108-115, 2008

佐藤栄治, 吉川徹,
コンパクトシティの実証的モデル, 玉川英則編著, コンパクトシティ再考, 理論的検証か
ら都市像の探求へ, 都市研究叢書 2, 学芸出版社, 3 章, pp.51-85, 2008

3-3. 解説・評論

吉川徹(II-6), 渡邊朗子・吉川徹 (III-6), 吉川徹(コラム),
どこに住むか-周りの環境 (II-6), どう選ぶか-共用スペースの見方 (III-6), 住み手が賢
く家を育てる時代 (コラム), 日本建築学会編, 長く暮らすためのマンションの選び方・育
て方, 彰国社, pp.50-55, pp.84-86, p.182, 2008

【竹宮健司】

1. 審査論文

竹宮健司

英国における小児ホスピスの療養環境計画と運営体制

日本建築学会計画系論文集, NO.634, P.2573-2581, 2008 年 12 月

2. 口頭発表

松山有希子, 竹宮健司

乳幼児期を対象とした子育て支援施設の利用特性に関する研究 武蔵野市におけるケース
スタディー

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p.189-190, 2008

相馬建, 竹宮健司

高齢者居住施設における医療機能を付加した支援環境に関する研究,
有料老人ホーム H におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p.425-426, 2008

田龍一, 数藤良太郎, 竹宮健司

集中治療病棟の療養環境整備状況, 集中治療病棟の療養環境整備のあり方に関する研究

その 1

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p.477-478, 2008

数藤良太郎, 竹宮健司

集中治療病棟の療養環境構成に関する事例検討, 集中治療病棟の療養環境整備のあり方に関する研究 その 2

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p.479-480, 2008

阿部光, 竹宮健司

精神科医療施設の入院・通所部門の利用特性に関する研究, K 病院におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p.483-484, 2008

3. その他

3-3. 解説・論評

竹宮健司

医療福祉用語の基礎知識, 医療福祉建築, No.160, 2008

竹宮健司

ホスピス, 建築大百科事典, 朝倉書店, p.564-565, 2008

【鳥海基樹】

1. 審査論文

鳥海基樹・村上正浩・後藤治・大橋竜太:「フランスに於ける公開文化財建造物の総合的安全計画に関する研究-安全性能規定の体系、公的安全マニュアル、ルーアン大聖堂に於ける検証とモデル化」、『日本建築学会計画系論文集』、Vol.73-No.627、2008 年 5 月、pp.923-930 (約 95%を執筆)

2. 口頭発表

TORIUMI Motoki, «L'Invention du paysage fluvial et l'émergence de la notion de le considérer comme patrimoine à Paris- A travers la construction d'architecture, d'infrastructure et d'espace public dans la capitale», à l'occasion du Premier congrès francophone d'histoire de la construction, Conservatoire National des Arts et Métiers et Ecole Nationale Supérieure d'Architecture de Paris-Malaquais, 21 juin 2008

3. その他

3-1. 専門書

小林克弘・三田村哲哉・橘高義典・鳥海基樹:『世界のコンバージョン建築』、東京:鹿島出版会、2008 年 4 月、182p

鳥海基樹：「フランスのまちづくり」、似田貝香門（他編著）：『まちづくりの百科事典』、東京：丸善、2008年7月、pp.389-397

3-3. 解説・評論

鳥海基樹：「なぜフランスの都市デザインか」、『新建築』、2008年11月号、p.179

鳥海基樹：「グラン・プロジェに隠された地道な都市デザイン」、『新建築』、2008年12月号、pp.210-213

鳥海基樹：「デファンスからオフENSへ」、『新建築』、2009年2月号、pp.201-204

日本テレビ系『報道特捜プロジェクト』の特集「これで大丈夫？危ない！自転車レーン」に於けるパリの事例紹介に関する制作協力と番組中でのコメント、2008年9月13日放映

東京 MX テレビ『ガリレオチャンネル』の特集「自転車都市 TOKYO-これからの移動のカタチ」に於けるパリの事例紹介に関する制作協力と番組中でのコメント、2009年1月17日及び25日放映

【黒川直樹】

2. 口頭発表

黒川直樹、アメリカにおける建築再生の最新動向と設計手法の特徴について、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 803-804, 2008.

【松本真澄】

1. 審査論文

篠田紀行、松本真澄、谷口僚一、上野淳

東京都心下町地域における在宅高齢者の地域生活様態と外出行動に関する調査—千代田区神田地域のケーススタディー 1—：日本建築学会技術報告集、No.26:2007.12.: pp673-678.

2. 口頭発表

山田あすか（立命館大）・井村理恵・松本真澄・上野淳

アンケート・ヒアリング調査にみる小規模高齢者介護施設の運営・利用の状況 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その1：日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊、p.279-：2007.08.

井村理恵（旭化成ホームズ）・山田あすか・松本真澄・上野淳

小規模高齢者介護施設における生活展開と利用者の滞在様態 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その2：日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1分冊、p.281-：2007.08.

松本真澄（首都大）・篠田紀行・谷口僚一・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 1
アンケート調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態：日本建築学会大会学術講演梗概
集・E-2 分冊， p.155-：2007.08.

篠田紀行（旭化成ホームズ）・谷口僚一・松本真澄・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 2
インタビュー調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態：日本建築学会大会学術講演梗
概集・E-2 分冊， p.157-：2007.08.

谷口僚一（大和ハウス工業）・篠田紀行・松本真澄・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 3
街中における高齢者の滞在場所と活動様態：日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2 分冊，
p.159-：2007.08.

5. 解説・評論

松本真澄，崎田由香

多摩ニュータウンにおける子供を狙った犯罪，地方を殺すな！，洋泉社 2007.11

< 建築歴史・意匠 >

【小林克弘】

2. 口頭発表：学会，研究会等での口頭発表

小林克弘，三田村哲哉，谷泰人，角野渉

フィンランドにおけるコンバージョン建築事例の調査研究－産業系施設からの転用におけ
るデザイン手法－

日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠， pp.799-800、2008 年.

谷泰人，小林克弘，三田村哲哉，角野渉

ドイツにおけるコンバージョン建築事例の調査研究－産業系施設，公共系施設からの転用
におけるデザイン手法－

日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠， pp.801-802、2008 年.

小川仁，小林克弘，須永修通，三田村哲哉

RIPPLE 1.－事務所ビルから共同住宅へのコンバージョン設計－

日本建築学会大会講演梗概集 建築デザイン， pp.298-299、2008 年.

太田望，須永修通，小林克弘，松本聡子

RIPPLE 2.－緩衝空間の効果－

日本建築学会大会講演梗概集 建築デザイン、pp.300-301、2008年。

椎橋武史、小林克弘

「動的平衡」概念から見たルイス・サリヴァンの建築造形の変遷に関する考察
日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠、pp.483-484、2008年。

3. その他

3-1. 専門書 : 専門書, 学術書, 訳書

Rob Gregory 著、小林克弘監修

世界の現代建築、丸善、2008年10月

小林克弘（編集代表者、分担執筆）、椎橋武史（分担執筆）
建築論事典、日本建築学会編、彰国社、2008年8月。

小林克弘（分担執筆）

建築大百科事典、朝倉書店、2008年11月

3-2. 研究報告 : 研究報告書, 報告記事, 等

小林克弘（企画立案・司会）

2008年度日本建築学会大会歴史意匠部門PD、建築論の諸相、広島大学、2008年8月

3-3. 解説・評論 : 解説記事, 評論文, 等

小林克弘

欧米におけるコンバージョンによる建築ストック再生
産学公連携センター・秋葉原サテライト、2008年9月

小林克弘

東京建築賞 第33回建築作品コンクール審査評
コア東京 2007年9月号

3-4. 作品等 : 建築作品, 他

小林克弘

姫路駅北広場計画

読売新聞、2008年10月19日

小林克弘

姫路駅北広場計画

神戸新聞、2008年10月19日

小林克弘

New Wave of Japanese Architecture 展
2008 年度 U I A 大会、トリノ、2008 年 7 月

【山田幸正】

2. 口頭発表

松林佑子, 山田幸正, 藤江創 (アーバン・ファクトリー), チャン・ティクエハー (シンガポール国立大)

チュントゥ団地の改善計画にむけた設計競技及びワークショップについて—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究 (9), 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.347-348, 2008

山田幸正, 片野朋治, 羽生修二 (東海大学)

旧ブイチュ BuiChu 教区における現存教会堂の分布について—ベトナム北部の木造教会建築に関する研究 (2), 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.145-146, 2008

片野朋治, 山田幸正, 羽生修二 (東海大学)

旧ブイチュ BuiChu 教区における木造教会堂身廊部の基本的な木構造の構成について—ベトナム北部の木造教会建築に関する研究 (3), 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.147-148, 2008

小坂謙介, 山田幸正, 大野 敏 (横浜国大)

御岳山山上集落における御師宿坊建築の変容について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.81-82, 2008

3. その他

3-2. 研究報告

山田幸正, 小林克弘, 他

東京都日の出町 平成 19 年度調査記録 景観編

首都大学東京大学院環境科学研究科建築学専攻プロジェクト研究コース, 2008

山田幸正, 小林克弘, 他

東京都日の出町 平成 19 年度調査記録 建築編

首都大学東京大学院環境科学研究科建築学専攻プロジェクト研究コース, 2008

山田幸正, 小林克弘, 他

東京都青梅市御岳山集落 平成 19 年度調査記録

首都大学東京大学院環境科学研究科建築学専攻プロジェクト研究コース, 2008

【小泉雅生】

3. その他

3-1. 専門書

小泉雅生

ハウジング・フィジックス・デザイン・スタディーズ

INAX 出版

3-2. 研究報告

小泉雅生

開口部を熱環境の弱点にしない，究極のエコガラス「スペース 21」の開発
ディテール，8月号別冊，彰国社，pp.106-110

3-3. 解説・評論

小泉雅生

私の心を揺さぶった環境デザイン クリスタルカテドラル

日経アーキテクチュア，No.877，日経 BP 社，pp.50

小泉雅生

拡散する家族のための家

建築東京，VOL.44NO.525，社団法人東京建築士会，pp.1

小泉雅生

グリーンビルディングの可能性

新建築，83号，(株)新建築社，pp.26-27

小泉雅生

200年住宅時代に向けて

新建ハウジングプラスワン，2008.10月号，新建新聞社，pp.100-101

小泉雅生

空気の流れ 微気候のデザイン

建築技術，第707号，(株)建築技術，pp.82-85

小泉雅生

LOS NUEVOS VIDRIOS DE EXTERIOR

ARQUITECTURA Y DISEÑO, No.89, RBA EDIPRESSE S.L, pp.184

小泉雅生

第36回会員作品展

建築士，vol.57 No.669，社団法人日本建築士会連合会，pp.3

小泉雅生

アシタノイエ

建築家は住宅で何を考えているのか, PHP 研究所, pp.190-195

3-4. 作品等

小泉雅生

デンカノイエ

住宅特集, 270 号, 新建築社, pp.84-91

小泉雅生

戸田市立芦原小学校

建築士, VOL.57 NO.673, 社団法人日本建築士会連合会, pp.23-24

小泉雅生

幼・小・中を一体化する隙間の型取り

GA JAPAN, 96 号, A.D.A EDITA Tokyo, pp.136-139

小泉雅生

室内環境のデザインは建築を変えるだろうか

住宅建築, 407 号, 建築思潮研究所, pp.126-133

小泉雅生

既存校舎との関係を調停する小泉的パズリングとは?

GA JAPAN, 97 号, A.D.A EDITA Tokyo, pp.76-87

小泉雅生

鴻巣市文化センター

アルゴリズムック・デザイン, 鹿島出版会, pp.46-47

【猪熊 純】

3. その他

3-2. 研究報告

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,

Bamboo House Project, 朝日新聞, 2008. 8. 20

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,

Bamboo House Project, 横浜防災フェア, 横浜赤レンガ倉庫, 2008. 8. 23-24

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,

Bamboo House Project, ナッ得ニッポン, BS 朝日, 2008. 8. 29

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,
Bamboo House Project, 日経アーキテクチュア 9月8日号, 2008. 9. 8

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,
Bamboo House Project, ユニバーサルデザイン, 29号, 2009. 1. 20

青木茂 中林一樹 鳥海基樹 高木次郎 門脇耕三 猪熊純,
Bamboo House Project, 新建築, 12月号, 新建築社, pp. 22-23, 2008.

猪熊純
まちをデザインしよう, 下野新聞, PP. 14, 2009. 1. 26

猪熊純
まちをデザインしよう 2, 下野新聞, PP. 14, 2009. 3. 9

3-3. 解説・評論

猪熊純,
すべてを解体する宇宙としての建築 (藤本壮介評論),
住宅特集 4月号, 新建築社, pp. 130-131, 2008. 4. 1

<建築生産>

【深尾精一】

1. 審査論文

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三
比例ハザードモデルを用いた戸建住宅の外壁改修周期の推定
日本建築学会計画系論文集, 第 628 号, pp. 1231-1236, 2008

小川 仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波 進, 田原健一
エレベータ付加改修システムの試作実験及び普及可能性の検証
一階段一体型エレベータの開発 その 2 -
日本建築学会技術報告集, 第 27 号 pp. 259-264, 2008

Seichi FUKAO, The History of Developments toward Open Building in Japan,
Proceedings of an international joint conference held by CIB W104 - Open Building
Implementation and CIB W110- International Settlements and Affordable Housing:
Education for an Open Architecture, pp.64-71, 2008

2. 口頭発表

齋藤茂樹，深尾精一，門脇耕三

戸建住宅の外壁改修に着目した木造住宅密集地域の将来変化予測
シミュレーションによる外壁分布の変化に関する考察
日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp.49-50，2008

及川光，深尾精一，門脇耕三

集合住宅におけるバルコニー設計の実態に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，p.997-998，2008

西山史一，深尾精一，門脇耕三，齋藤茂樹

集合住宅住戸における水廻りとパイプシャフトの位置に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，p.1019-1020，2008

榎本博之，深尾精一，門脇耕三，齋藤茂樹

銀座地区における中高層建築物の外壁更新履歴に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，p.1033-1034，2008

大野亮介，深尾精一，門脇耕三

集合住宅の戸別改修における内装構法の実態
日本建築学会大会学術講演梗概集，E-2 分冊，p.59-60，2008

3. その他

3-1. 専門書

深尾精一，インテリアプランナー更新講習委員会

サステイナブルな社会を目指すインテリアプランナーが備えるべき技術，財団法人建築技術教育普及センター，インテリアプランナー更新講習テキスト，pp.3-5，2008

3-2. 研究報告

深尾精一（研究代表者）

エレベータ付加による住宅ストック活用技術に関する研究開発，平成 17～18 年度国土交通省建設技術研究開発助成制度（基礎・応用研究開発公募）総合研究開発報告書，53 頁，2008

3-3. 解説・評論

深尾精一

建築の縄張り，日本建築学会，建築雑誌 建築年報 2008 II 視点，Vol.123，No.1580，pp.8-11，2008

深尾精一

団地活性化の展望と想い，財団法人建築保全センター，R e（アールイー），No.160，

pp.24-28, 2008

深尾精一

既存建築ストックを活用しやすい建築界へ向けて，社団法人全日本建設技術協会，月間建設，No.53 pp.5-6, 2009

【橘高義典】

1. 審査論文

蛭田暁，橘高義典，田村雅紀，

土壁塗り仕上材料の色彩調合設計方法に関する研究，日本建築学会構造系論文集，No.624，pp.197-201, 2008

山崎尚志，橘高義典，三田紀行，

傾斜羽根回転式粘度計の基礎的特性左官材料のワーカビリティーの評価手法に関する研究（その1），日本建築学会構造系論文集，No.632，pp.1707-1711, 2008

遠藤利二，橘高義典，

ALC パネルの各種強度性状に及ぼす加熱の影響 その1 加熱後の ALC パネルの曲げ強さ及び X 線回折による ALC 結晶構造の分析，日本建築学会構造系論文集，No.633，pp.1921-1926, 2008

2. 口頭発表

山崎尚志，橘高義典，三田紀行，

左官材料のワーカビリティーの評価手法に関する研究 傾斜羽根回転式粘度計の基礎的特性，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-1 分冊，pp.159-160, 2008

石垣泰樹，遠藤利二，橘高義典，

ALC パネルの各種強度性状に及ぼす加熱の影響 その1. 加熱後の ALC パネルの曲げ強さ，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-1 分冊，pp.197-198, 2008

遠藤利二，橘高義典，石垣泰樹，

ALC パネルの各種強度性状に及ぼす加熱の影響 その2. ALC のトバモライト結晶の X 線回折による加熱変化深さと ALC パネルの曲げ強さとの関係，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-1 分冊，pp.199-200, 2008

鈴木武，橘高義典，田村雅紀，

建築物外壁面の美観維持に関する研究－壁面の3次元形態と汚れ劣化度との関係－，日本建築学会大会学術講演梗概集，A-1 分冊，pp.221-222, 2008

四宮愛理，橘高義典，田村雅紀，

磁力により繊維を配向させた網繊維補強モルタルの基礎的物性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, A-1 分冊, pp.519-520, 2008

渡辺創一郎, 橘高義典, 田村雅紀,
促進加熱中性化を受けたモルタルの微細構造に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, A-1 分冊, pp.1101-1102, 2008

福岡伸太郎, 橘高義典,
コンクリートの混合モード破壊の評価方法に関する基礎的検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, A-1 分冊, pp.1129-1130, 2008

Kitsutaka, Y.,
Strength properties and microstructure of mortar specimens subjected to the effects of temperature and accelerated carbonation, ISaG2008 - International Symposium on the Ageing Management and Maintenance of Nuclear Power Plants, poster presentation, At Takeda Hall, University of Tokyo, pp.24-25, 2008

Y Kitsutaka, Mr H Hiramatsu and M Tamura,
Influence of High Temperature Heating on the Mechanical Properties of Autoclaved Aerated Concrete Panel, Proceedings of the International Conference on Concrete Construction's Sustainable Option, Scotland, UK, Concrete for Fire Engineering, pp.283-289, 2008

Kitsutaka, Y. and Watanabe, S.
Pore Structure of Cement Mortar Hydrated at Different Temperature and Co2 Conditions, Proceedings of the 1st International Conference on Microstructure Related Durability of Cementitious Composites, Nanjing, China, pp.177-182, 2008

【角田誠】

1. 審査論文

佐藤考一, 松村秀一, 遠藤和義, 角田 誠
建築再生における建材流通拠点に関する研究－ホームセンター型建材流通に関する考察－
日本建築学会計画系論文集, No.636, pp.447-454, 2009年2月

2. 口頭発表

前野聖人, 角田誠
市町村合併によって生じた余剰空間の利活用に関する調査研究 旧議場の転用と改修手法
について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.1051-1052, 2008年8月

後藤翼, 角田誠

将来的な用途変更を想定した建築設計手法に関する調査研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1，pp.1053-1054，2008年8月

謝秉銓，角田誠，楊詩弘

利用者満足度に着目した公共施設ストックの有効活用に関する研究 台湾台北市万華区区民活動センターを対象として，日本建築学会大会学術講演梗概集，F，pp.1281-1282，2008年8月

関栄二，秋山哲一，角田誠，遠藤英範

リフォーム工事における業務と組織に関する調査研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，F，pp.1365-1368，2008年8月

遠藤英範，角田誠

住宅リフォーム工事の生産体制に関する調査研究 効率化のための多能工のあり方について，日本建築学会大会学術講演梗概集，F，pp.1563-1564，2008年8月

3-2. 研究報告

秋山哲一、角田誠，小見康夫，関 栄二

住宅リフォーム産業の産業構造に関する調査，住宅リフォーム・紛争処理支援センター，2008年3月

松村秀一，遠藤和義，角田誠

ホームセンターによる建材流通に関する研究，トステム建材産業振興財団，2008年3月

【門脇耕三】

1. 審査論文

小川仁，深尾精一，山崎真司，小林克弘，門脇耕三，見波進，田原健一

エレベータ付加改修システムの試作実験及び普及可能性の検証 一階段一体型エレベータの開発 その2-，日本建築学会技術報告集，第14巻，第27号，pp. 259-264，2008

齋藤茂樹，深尾精一，門脇耕三

比例ハザードモデルを用いた戸建住宅の外壁改修周期の推定，日本建築学会計画系論文集，第73巻，第628号，pp. 1231-1236，2008

2. 口頭発表

門脇耕三，小泉雅生

壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造住宅における PCa パネルへの開口設置を伴う改修に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp. 1047-1048，2008

西山史一，深尾精一，門脇耕三，齋藤茂樹

集合住宅住戸における水廻りとパイプシャフトの位置に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 1019-1020, 2008

大野亮介, 深尾精一, 門脇耕三

集合住宅の戸別改修における内装構法の実態, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp. 59-60, 2008

及川光, 深尾精一, 門脇耕三

集合住宅におけるバルコニー設計の実態に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 997-998, 2008

榎本博之, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹

銀座地区における中高層建築物の外壁更新履歴に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 1033-1034, 2008

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三

戸建住宅の外壁改修に着目した木造住宅密集地域の将来変化予測 —シミュレーションによる外壁分布の変化に関する考察—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊 (選抜梗概), pp. 49-52, 2008

3. その他

3-1. 専門書

日本建築学会 (編), 門脇耕三 (分担執筆)

長く暮らすためのマンションの選び方・育て方, pp. 144-147, 彰国社, 2008

3-2. 研究報告

Kozo KADOWAKI, Yuichi ITO, Rie YANAI and Masao KOIZIMI

Pattern Book for Housing Remodeling, Tokyo Metropolitan University JR team, 80pp., 2008

青木茂 (編著), 深尾精一, 団塚栄喜, 細井昭憲, 門脇耕三 (著)

団地をリファインしよう。リファイン建築研究会, 124pp., 2009

3-3. 解説・評論

紹介記事

持つなら、持たねば、持たせねば④, わが家のミカタ, 朝日新聞, 生活面, 2008

紹介記事

Bamboo House Project —災害時の仮設住宅システムを提案—, ユニバーサルデザイン, 29号, pp. 50-53, 2009 1

【松沢晃一】

1. 審査論文

松沢晃一, 小澤潤治, 渡邊高朗,
鋼材とセメント系材料の摩擦性状に関する実験的研究, コンクリート工学年次論文集, 第
30 卷, 第 3 号, pp.1141-1146, 2008

2. 口頭発表

阿部宏, 松沢晃一, 白都滋, 菊田茂美, 松崎育弘,
ポリマーセメントモルタルおよびコンクリートの構造部材への利用に関する研究開発 (そ
の 1) 短繊維補強ポリマーセメントモルタルの基本性状, 日本建築学会大会学術講演梗概
集, C-2 分冊, pp.205-206, 2008

松沢晃一, 阿部宏, 菊田茂美, 白都滋, 松崎育弘,
ポリマーセメントモルタルおよびコンクリートの構造部材への利用に関する研究開発 (そ
の 2) 短繊維補強ポリマーセメントコンクリートの基本性状, 日本建築学会大会学術講演
梗概集, C-2 分冊, pp.207-208, 2008

白都滋, 菊田茂美, 松沢晃一, 阿部宏, 松崎育弘,
ポリマーセメントモルタルおよびコンクリートの構造部材への利用に関する研究開発 (そ
の 3) 短繊維補強ポリマーセメントコンクリートを用いた梁部材の構造実験, 日本建築学
会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp.209-210, 2008

3. その他

3-3. 解説・評論

松沢晃一,
文献抄録, 高靱性セメント複合材料の開発と耐震壁への応用, 建築雑誌, vol.123, no.1582,
pp.77-78, 2008.11

<建築構造>

【芳村学】

1. 審査論文

金 紅日, 芳村 学, 中村孝也
古い鉄筋コンクリート柱の耐震性に及ぼす袖壁の影響, 日本建築学会構造系論文集, Vol.73,
No.633, pp.2001-2008, 2008

Manabu Yoshimura

Formulation of Post-Peak Behavior of Old Reinforced Concrete Columns Until

Collapse, Proceedings of the Fourteenth WCEE, DVD-ROM, Paper ID:05-03-0104, 2008

保木和明, 芳村 学, 中村孝也, 金 紅日

主筋に丸鋼を用いた鉄筋コンクリート柱の破壊モードの分類に関する考察, コンクリート工学年次論文集, Vol.30, No.3, pp.187-192, 2008

永作智也 (NTT ファシリティーズ), 芳村 学, 中村孝也, 中村敏治 (大成建設)

建物外部から施工可能な定着型補強筋工法による RC 柱のせん断補強実験, コンクリート工学年次論文集, Vol.30, No.3, pp.1219-1224, 2008

2.口頭発表

金 紅日, 芳村 学, 中村孝也

鉄筋コンクリート造直交壁付き柱のせん断終局強度の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.575-576, 2008

保木和明, 芳村 学, 中村孝也

古い鉄筋コンクリート柱を対象とした破壊モードの分類, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.601-602, 2008

仙崎智涉, 芳村 学, 中村孝也, 保木和明, 中村敏治 (大成建設)

ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術の開発

(その 4) 異形鉄筋を用いた柱の崩壊実験－実験概要と実験結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.751-752, 2008

永作智也 (NTT ファシリティーズ), 仙崎智涉, 芳村 学, 中村孝也, 中村敏治 (大成建設)

ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術の開発

(その 5) 異形鉄筋を用いた柱の崩壊実験－実験結果と丸鋼を用いた柱との比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.753-754, 2008

中村敏治 (大成建設), 長瀬公一, 藤井俊二, 芳村 学

ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術の開発

(その 6) 実建物の柱を用いた施工実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.277-278, 2008

3.その他

3-3.解説・評論

芳村 学

柱の崩壊挙動を考慮した鉄筋コンクリート建物の耐震性評価に関する研究 (2008 年日本建築学会賞(論文)), 建築雑誌, Vol.123, No.1579, p.55, 2008

【北山和弘】

1. 審査論文

田島祐之、北山和宏、矢島龍人、
PRC 構造立体十字形部分架構におけるシース管形状の違いが接合部強度に与える影響に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.30、No.3、pp. 391-396、2008年7月。

中沼弘貴、北山和宏、
連層鉄骨ブレースで補強された RC 骨組の耐震性能に対する二軸曲げの影響、コンクリート工学年次論文集、Vol.30、No.3、pp. 1159-1164、2008年7月。

KITAYAMA Kazuhiro and NAKANUMA Hiroki,
Strength and Ductility of Retrofitted R/C Building by Multi-Story Steel-Braced Frame Subjected to Tri-Lateral Earthquake Loading, Proceedings, 14th World Conference on Earthquake Engineering, DVD-Rom, Paper ID 05-03-0224, pp.1-8, 2008, October.

Tajima Yuji , Kitayama Kazuhiro and Yajima Ryuto,
Shear Behavior and Bond Performance along PC Tendons in Prestressed Reinforced Concrete Interior Beam-Column Subassembly under Bi-Lateral Load Reversals, Proceedings, 14th World Conference on Earthquake Engineering, DVD-Rom, Paper ID 05-03-0167, pp.1-8, 2008, October.

2. 口頭発表

岸田慎司、北山和宏、永井覚、
プレストレストコンクリート造柱・梁接合部のせん断強度に関するデータベースの分析及び評価、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.947-948、2008年9月。

中沼弘貴、北山和宏、
連層鉄骨ブレースで補強された RC 骨組の三方向外力下での耐震性能評価（その 3 三次元非線形有限要素解析による検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.731-732、2008年9月。

北山和宏、田島祐之、矢島龍人、
PRC 柱梁十字形部分架構の耐震性能評価に関する実験的研究(その 1 実験概要および破壊性状)、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.157-158、2008年9月。

矢島龍人、北山和宏、田島祐之、
PRC 柱梁十字型部分架構の耐震性能評価に関する実験的研究(その 2 柱梁接合部せん断破壊時の耐震性能)、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.159-160、2008年9月。

田島祐之、北山和宏、矢島龍人、
PRC 柱梁十字型部分架構の耐震性能評価に関する実験的研究(その3 梁曲げ破壊時の耐震性能)、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.161-162、2008 年 9 月。

宮崎裕ノ介、北山和宏、
三次元非線形有限要素解析による PC 構造の付着機構の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp.317-318、2008 年 9 月。

北山和宏、林秀樹、
下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した立体 RC 骨組の三方向加力実験(その1)、日本地震工学会年次大会、pp.38-39、2008 年 11 月。

林秀樹、北山和宏、
下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した立体 RC 骨組の三方向加力実験(その2)、日本地震工学会年次大会、pp.40-41、2008 年 11 月。

【高木次郎】

2. 口答発表

高木次郎

米国の審査制度に学ぶ、建築の強用美を支える構造技術者－建築確認制度厳格化の中で－、日本建築学会大会（中国）構造部門（構造委員会）研究協議会、2008

高木次郎

構造設計者の技量評価と資格制度の提案、「建築学からみたあるべき構造設計特別調査委員会」中間報告会、日本建築学会、2009

【山村一繁】

3. その他

3-1. 専門書

西川孝夫、山村一繁、ほか4名、
建築の振動－応用編、朝倉書店、2008.

【見波進】

1. 審査論文

山崎真司、見波進、羽田和樹、

中心圧縮を受ける箱形断面鋼柱の完全崩壊挙動、日本建築学会構造系論文集、No.631、pp.1657-1664、2008.9

田原健一、山崎真司、見波進、

損傷制御構造に設置された履歴ダンパーのエネルギー吸収能力予測法, 日本建築学会構造系論文集, No.630, pp.1353-1360, 2008.8

山崎真司, 見波進, 高濱亮太,
任意方向水平荷重を受ける H 形断面鋼柱の単調載荷時弾塑性挙動 —任意方向水平荷重を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する研究 その 1—, 日本建築学会構造系論文集, No.629, pp.1159-1167, 2008.7

新井聡(巴コーポレーション), 中込忠男(信州大学), 見波進,
複数の鋼材よりなる部材の脆性破壊に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, No.626, pp.647-652, 2008.4

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一,
エレベータ付加改修システムの試作実験及び普及可能性の検証 —階段一体型エレベータの開発— その 2—, 日本建築学会技術報告集, No.27, pp.259-264, 2008.6

2. 口頭発表

Kazuhiro Nohara (SEKISUI Chemical Co.,Ltd), Hirofumi Aoki (Yokohama National Univ.), Tadao Nakagomi (Shinshu Univ.), Susumu Minami (Tokyo Metropolitan Univ.), Yoshihiro Matsuda (PanaHome Corp.),
Investigation of the Applicability of NDT to Resistance Spot Welding, The 8th International Welding Symposium, Paper-ID: QP-3, 2008.11

Susumu Minami, Hirohumi Aoki, Tadao Nakagomi, Motohiro Kasahara (JUST Corporation), Ken Hashimoto (Misawa Homes Co., Ltd.),
Study on Ultrasonic Inspection of Weld Defects in Welded Joints of Steel Thin Plates, - Influence of Weld Defects on Tensile Strength of Weld Joints -, The 8th International Welding Symposium, Paper-ID: PT2-46, 2008.11

Kazuki Haneda, Shinji Yamazaki, Susumu Minami,
Energy Absorption Capacity of Steel Beams Subjected to Cyclic Bending Moment, Proceedings of 14th World Conference on Earthquake Engineering, PaperID:05-05-0101, pp.1-8, 2008.10

Susumu Minami, Shinji Yamazaki,
Study on Conditions for Preventing Progressive Collapse in Multistory Steel Frames, Proceedings of 14th World Conference on Earthquake Engineering, PaperID:05-05-0102, pp.1-8, 2008.10

Kenichi Tahara, Shinji Yamazaki, Susumu Minami,

Response Control Effect of Coupled Vibration Control Structures Using Hysteresis Damper under Ground Motion, Proceedings of 14th World Conference on Earthquake Engineering, PaperID:05-06-0097, pp.1-8, 2008.10

田原健一, 山崎真司, 見波進,
強震を受ける制振用履歴ダンパーのエネルギー吸収能力予測法, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, pp.527-528, 2008.9

山田丈富 (千葉工大), 中込忠男 (信州大), 見波進, 藤本効 (ベターリビング),
アルミニウム合金ボルトの終局せん断強度に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.649-650, 2008.9

見波進, 山崎真司, 羽田和樹,
鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その 4 鋼柱の完全崩壊挙動と荷重変形関係のモデル化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.755-756, 2008.9

坂元尚子, 山崎真司, 見波進, 羽田和樹,
鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その 5 進行性崩壊条件と動的解析結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.757-758, 2008.9

和田芳宏, 山崎真司, 見波進,
強震を受ける鋼構造多層骨組のエネルギー応答性状 層と部材の累積塑性変形倍率の関係, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.763-764, 2008.9

新井聡 (巴コーポレーション)・中込忠男・見波進・石田正法,
溶接欠陥を有する柱梁溶接接合部の欠陥評価に関する研究 その 1 端部欠陥を考慮した有限要素法解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.991-992, 2008.9

石田正法 (戸田建設)・中込忠男・見波進・新井聡,
溶接欠陥を有する柱梁溶接接合部の欠陥評価に関する研究 その 2 端部欠陥の等価欠陥長さ検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.993-994, 2008.9

栗原彩, 山崎真司, 見波進, 羽田和樹,
繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 3 局部座屈を伴う鋼梁の繰返し載荷実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.1053-1054, 2008.9

羽田和樹, 山崎真司, 見波進, 栗原彩,
繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 4 局部座屈を伴う鋼梁のエネルギー吸収能力, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp.1055-1056, 2008.9

3. その他

3.3. 解説・評論

見波進, 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」, structure, (社)日本建築構造技術者協会, No.106, pp.26-29, 2008.4

【中村孝也】

1. 審査論文

中村孝也, 芳村 学, 近藤隆幸

擬似動的的手法による古い鉄筋コンクリート柱の崩壊実験, 構造工学論文集, vol.55B, 2009

2. 口頭発表

中村孝也, 近藤隆幸, 芳村 学

擬似動的的手法による鉄筋コンクリート柱の崩壊実験 (その 1・実験概要と実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.553-554, 2008

中村孝也, 近藤隆幸, 芳村 学

擬似動的的手法による鉄筋コンクリート柱の崩壊実験 (その 2・実験結果とその検討), 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp.555-556, 2008

近藤隆幸, 中村孝也, 芳村 学

擬似動的的手法による旧基準 RC 柱の崩壊実験, 日本地震工学会大会—2008 梗概集, pp.36-37, 2008

< 建築環境 >

【市川憲良】

2. 口頭発表

中野民雄, 市川憲良, 前真之, 佐々木史朗, 堀静香, 中村勉,

集合住宅の給水管口径決定における使用水量算定方法に関する調査研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 環境工学 I, pp.663-664, 2008.

小澤諭, 石野久彌, 市川憲良, 中山哲士,

気象要素の短時間変動特性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 環境工学 I, pp.1229-1230, 2008.

中山哲士, 石野久彌, 市川憲良,

拡張アメダス気象データと観測データによる降水の地域性に関する基礎的研究, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.401-404, 2008.

稲田朝夫, 市川憲良, 中野民雄, 堀静香,
直結直圧給水システムに関する研究 (その 1) 給水実験タワーを用いた実験, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.1-4, 2008.

堀静香, 市川 憲良, 稲田朝夫, 中野民雄,
直結直圧給水システムに関する研究 (その 2) 直結直圧給水方式の集合住宅における水使用実態調査, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.5-8, 2008.

野知啓子, 瀬下哲也, 大塚雅之, 津田宏之, 赤井仁志, 小川正晃, 紀谷文樹, 市川憲良,
循環式浴槽システムにおける浴槽水中有機汚濁物質の除去特性, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.741-744, 2008.

Noriyoshi ICHIKAWA, Sizuka Hori, Masayuki OTSUKA, Fumitoshi. Kiya, Satoshi Nakayama, Y. OHASHI, and Yasuhiro Kainuma,
Study on evaluation of faucets in water supply space using AHP and utility function. CIB-W062 International Symposium, pp.179-188, 2008.

3. その他

3-3. 解説・評論

市川憲良,
特集：給水設備の現状と展望, 空気調和・衛生工学, 第 83 巻, 第 3 号, pp.3-6, 2009.

市川憲良,
高層建築でも直結方式で給水できる?, 日経アーキテクチュア, 2009 2-9, pp.74-75, 2009.

【須永修通】

1. 審査論文

Yuko Tsukiyama, Nobuyuki Sunaga and Yousuke Chiba
Indoor climate control effect of aac panels as determined by house model measurements and simulations, Proceedings of PLEA2008 - The 25th Conference on Passive and Low Energy Architecture, CD/No.362(6 pages), 2008

2. 口頭発表

須永修通
バイオクライマティック住宅建築における暑熱対策 — 温熱感研究の建築設計への活用 —, 日本建築学会第 37 回熱シンポジウム予稿集, pp.63-68, 2008

須永修通
冷房のない教室の温熱環境改善とエコスクール化, 日本建築学会第 17 回空気シンポジウム予稿集, pp.37-42, 2008

小川 仁, 小林克弘, 須永修通, 三田村哲哉,

RIPPLE 1. 事務所ビルから共同住宅へのコンバージョン設計, 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集, pp.298-299, 2008

太田望, 須永修通, 小林克弘, 松本聡子

RIPPLE 2. 緩衝空間の効果, 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集, pp.300-301, 2008

天野至康, 堀祐治, 須永修通

不均一温熱環境における快適性評価手法に関する研究 (その1) 吹き抜けプランの温熱特性および既往評価の研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-1 分冊, pp.21-22, 2008

堀祐治, 天野至康, 須永修通

不均一温熱環境の快適性評価手法に関する研究 (その2) 熱的快適性の簡易予測手法に関する検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-1 分冊, pp.23-24, 2008

津田晃宏, 須永修通, 大塚弘樹, 一坊寺英夫

温熱環境改善を目的とした開口部に設置する断熱内戸に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.217-218, 2008

松本聡子, 須永修通, 深澤たまき

改修時に設ける緩衝空間の住環境改善効果, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.471-472, 2008

築山祐子, 須永修通, 千葉陽輔

ALC 住宅の躯体の熱容量と室内温熱環境に関する基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.475-476, 2008

高野隼伍, 須永修通

通風に配慮した平面プランを持つ集合住宅における温熱環境調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.491-492, 2008

川上梨沙, 須永修通

学校建築における換気扇を用いたナイトページの効果に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.493-494, 2008

伊藤紗加, 池澤知子, 須永修通

アンケート・実測調査によるエコスクール認定校の実態把握 その1 エコスクールのアン

ケート調査結果，日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊，pp.595-596，2008

池澤知子，伊藤紗加，須永修通

アンケート・実測調査によるエコスクール認定校の実態把握 その2 エネルギー消費量と夏期教室内温熱環境，日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊，pp.597-598，2008

太田望，松本聡子，須永修通

緩衝空間を設けた改修住宅における室内環境の長期実測調査，太陽／風力エネルギー講演論文集，pp.226-230，2008

伊藤紗加，須永修通，川上梨沙，小林友希

教室の光・熱環境性能向上に関する実験的検討，太陽／風力エネルギー講演論文集，pp.517-520，2008

3. その他

3-1. 専門書

須永 修通

ハウジング・フィジックス・デザイン・スタディーズ(レクチャー4-2 曾我部邸のパッシブデザイン)，INAX 出版，pp.114-120，2008

3-2. 研究報告

須永修通

横浜市学校施設環境改善対策実証実験，平成 20 年度横浜市受託研究報告書，2009

須永修通

パッシブ空間における躯体の蓄熱効果に関する研究，平成 20 年度旭化成ホームズ共同研究報告書，2009

須永修通

事務所建築における断熱内戸を用いた温熱環境改善および環境負荷低減効果，平成 20 年度三鷹ネットワーク大学推進機構「民学産公」協働研究事業報告書，2009

3-3. 解説・評論

藤江創，須永修通，大塚弘樹，一坊寺英夫

In BOX Project #01 『足立区 S 邸』 — 木造建築内に高齢者が暮らす高性能シェルターを —，日経アーキテクチャー，第 873 号 pp.60-61，2008

須永修通

エコスクールとしての目黒中央中学校，月刊スクールアメニティ Vol.24/No.274 p.27 ，2009

須永修通, 藤江創

町工場に生活ボックスを挿入する (対談), TOTO通信, 第 53 卷, 第 1 号, pp.34-41, 2009

【永田明寛】

2. 口頭発表

中島秀雄(清水建設), 永田明寛, 石川孝重(日本女子大), 林幸雄 (鹿島建設), 温度荷重の簡易予測法に関する研究 その 8 2 次元周期定常解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1, pp.69-70, 2008.

永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 黒木勝一(建材試験センター), 萩原伸治(建材試験センター), 市川大介 (住友林業), 加藤信介(東大), 建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その 7 熱流計を用いた熱板法 (2 棟の建物の実測結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp.203-204, 2008.

萩原伸治(建材試験センター), 黒木勝一(建材試験センター), 永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 市川大介 (住友林業), 加藤信介(東大), 建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その 8 熱画像法 (2 棟の建物の実測結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp.205-206, 2008.

飯野由香利 (新潟青陵大), 瀧澤のりえ (東北大), 吉野博 (東北大), 倉渕隆 (東京理科大), 村松學 (武蔵野大), 岩下剛 (武蔵工業大), 長澤悟 (東洋大), 長谷川麻子 (熊本大), 永田明寛, 熊谷一清 (東京大) 全国調査に基づいた公立小学校における暖冷房・換気設備の整備および使用状況 (第 1 報) 調査概要と冷暖房・換気設備の整備状況, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.1385-1388, 2008.

飯野由香利 (新潟青陵大), 吉野博 (東北大), 瀧澤のりえ (東北大), 岩下剛 (武蔵工業大), 熊谷一清 (東京大), 倉渕隆 (東京理科大), 長澤悟 (東洋大), 永田明寛, 長谷川麻子 (熊本大), 村松學 (武蔵野大), 全国調査に基づいた公立小学校における設備の整備および使用状況, 日本建築学会第 17 回空気シンポジウム, pp.3-10, 2008.

3-3. 解説・評論

永田明寛,

空調システムのエネルギー消費量計算に関する EN 規格—EN15243 を中心として—, IBEC, No.167, pp.24-26.

【中山哲士】

2. 口頭発表

中山哲士, 石野久彌, 饗庭伸, 小澤諭

東京都西部の都市計画道路予定地周辺の都市温熱環境の実態調査
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1219-1220, 2008.9

佐藤香苗, 石野久彌, 中山哲士

都市気候に影響を及ぼす地表面被覆の特性研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1 分冊, pp.1003-1004, 2008.9

田端康宏, 石野久彌, 中山哲士, 鹿野直樹

屋上緑化の評価研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1217-1218, 2008.9

大山美衣, 石野久彌, 中山哲士

首都圏におけるヒートアイランド対策手法の効果予測に関する基礎研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1221-1222, 2008.9

佐藤豊, 石野久彌, 郡公子, 中山哲士

Google Earth を利用した国内主要都市の緑被率・水被率の解析 第1報 解析法と8都市
の基本的な地表面被覆特性
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1223-1224, 2008.9

西田志津華, 石野久彌, 中山哲士, 小澤諭

紫外放射量の直散分離に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1227-1228, 2008.9

小澤諭, 市川憲良, 石野久彌, 中山哲士

気象要素の短時間変動特性に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1229-1230, 2008.9

鹿野直樹, 石野久彌, 中山哲士, 田端康宏

地域性を考慮した実験計画法による年間熱負荷計算に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1231-1232, 2008.9

大眉純明, 石野久彌, 中山哲士, 大熊涼子

設定室温の緩和と温熱感に関する研究
日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp.1237-1238, 2008.9

中山哲士, 石野久彌, 市川憲良

拡張アメダス気象データと観測データによる降水の地域性に関する基礎的研究

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.401-404, 2008.8

西田志津華, 石野久彌, 中山哲士

地上観測における波長別日射の特性研究

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.405-408, 2008.8

大山美衣, 石野久彌, 中山哲士

ヒートアイランド対策による東京圏熱環境分布特性への影響試算

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp.1225-1228, 2008.8

3. その他

3-3. 解説・評論

中山哲士

小型 GPS を使った都市の熱環境解析

建築設備士, p.37, 2009.2

【深澤 たまき】

1. 審査論文

Tamaki Fukazawa, Nobuyuki Sunaga et al.

Thermal Comfort Zone in Daily Life Considering Adjustments by Residents, Proceedings of PLEA2008 - The 25th Conference on Passive and Low Energy Architecture, CD/No.649(6 pages), 2008

2. 口頭発表

深澤たまき, 須永修通, 松田克己, 千葉陽輔, 尾崎充男

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その6 住宅内の日常生活における予測温冷感指標と快適範囲, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.401-402, 2008

鈴木晶子, 築山裕子, 須永修通, 深澤たまき, 千葉陽輔

躯体の熱容量が住宅の室内温熱環境に与える影響に関する研究 その1 実験建物概要および夏期シミュレーション結果, 太陽/風力エネルギー講演論文集, pp.217-220, 2008

築山裕子, 鈴木晶子, 須永修通, 深澤たまき, 千葉陽輔

躯体の熱容量が住宅の室内温熱環境に与える影響に関する研究 その2 実験建物を用いた夏期実測結果, 太陽/風力エネルギー講演論文集, pp.221-224, 2008

3. その他

3-1. 専門書

深澤たまき

ハウジング・フィジックス・デザイン・スタディーズ(キーコンセプト [09, 10], 年表),
INAX 出版, pp.263-268/276-281, 2008

3-3. 解説・評論

深澤たまき

第 5 回シンポジウム「距離を創る」—エアウォールハウス / ANNEX, JIA Bulletin2008
年 4 月号, pp.17, 2008

<戦略研究センター>

【青木茂】

2. 口頭発表

青木茂,

広島県, ユニタール (国連訓練調査研究所) 広島ラウンドテーブル (ユニタール (国連訓練調査研究所) 広島事務所) 2008.5.22,

青木茂

愛知産業大学大学院生及び一般への公開講座「計画学特論」(愛知産業大学), 2008.6.14,

青木茂

東大駒場-学館エコ改修と運営のための特別講座 (環境三四郎), 2008.6.27,

青木茂

新構法開発研究会 (新構法開発研究会), 2008.7.16,

青木茂

宮坂建設工業株式会社 (宮坂建設工業株式会社), 2008.7.18,

青木茂

全国賃貸住宅フェア 2008 in 東京 (全国賃貸住宅新聞社), 2008.8.7,

青木茂

「官製不況に打ち克つ！」シンポジウム (データ・マックス), 2008.8.26,

青木茂

熊本県不動産鑑定士協会研修会 (熊本県不動産鑑定士協会), 2008.9.8,

青木茂

全板連・日板協青年部あすなろ研究会 in 神奈川 (全日本板金工業組合連合会・社団法人日本建築板金協会青年部), 2008.9.14,

青木茂
福岡県ゆとりのある住まいづくり協議会（福岡県ゆとりのある住まいづくり協議会），
2008.9.17，

青木茂
うわじまデザイン塾（宇和島地域ブランド化推進事業実行委員会），2008.10.4，

青木茂
大阪府建築士会（大阪府建築士会），2008.10.29，

青木茂
名古屋大学「環境問題への挑戦Ⅱ」（名古屋大学大学院），2008.11.10，

青木茂
四国地方整備局（「公共建築の日及び公共建築月間」四国地方実行委員会），2008.11.12，

青木茂
J A福岡市資産管理部会合同研修会（J A福岡市），2008.11.26，

青木茂
国交省保全塾（国土交通省大臣官房官庁営繕部計画課保全指導室），2009.1.16，

青木茂
大分県営繕行政実務研修（大分県土木建築部施設整備課），2009.2.5，

青木茂
日本P F Iセミナー（日本P F I協会），2009.2.20，

青木茂
熊本県立大学（環境共生学部居住環境学科），2009.2.23，

青木茂
次世代電化マンションを考える会勉強会（九州電力株式会社），2009.3.10，

青木茂
日本P F Iセミナー（日本P F I協会），2009.3.13，

青木茂
株式会社船井財産コンサルタンツ（船井財産コンサルタンツ），2009.3.14，

青木茂

日本PFIセミナー（日本PFI協会），2009.3.27，

3. その他

3-4. 作品等

青木茂

朝日新聞「首都大教授が試作 竹を使った仮設住宅」，2008.8.11，

青木茂

朝日新聞「青木・首都大教授ら 竹の仮設住宅試作」，2008.8.18，

青木茂

日刊建設工業新聞「青木茂氏のリファイン建築 クイズ溝の口 周辺のノイズを吸収する存在」，2008.9.5，

青木茂

大分合同新聞「「講義の何倍も刺激に」青木茂教授引率による首都大学都市環境学部建築見学演習」，2008.9.20，

青木茂

大分建設新聞「グッドデザイン賞 青木茂氏、3度目の受賞」，2008.10.20，

青木茂

建設通信新聞，「リファイン建築の過程公開」，2009.2.19

青木茂

建設通信新聞「旧国鉄寄宿舍を高齡住宅に再生」，2009.3.11，

建築雑誌

青木茂

TOTO リモデルレポート Vol.23，TOTO 出版 ，2008.4，

青木茂

ey か・た・る，日経広告九州支社 ，2008.4，

青木茂

建設物価 第1052号，財団法人建設物価調査会 ，2008.6，

青木茂

建設物価 第 1053 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.7,

青木茂

エルネオス, 株式会社エルネオス出版社, 2008.7,

青木茂

建設物価 第 1055 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.8,

青木茂

建築ジャーナル, 企業組合建築ジャーナル, 2008.8,

青木茂

建設物価 第 1056 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.9,

青木茂

日経アーキテクチュア No.882, 日経 B P 社, 2008.9,

青木茂

建設物価 第 1057 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.10,

青木茂

不動産ファンドレビュー, 株式会社不動産経済研究所, 2008.10,

青木茂

建設物価 第 1059 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.11,

青木茂

R e, 財団法人建築保全センター, 2008.11,

青木茂

建築人, 社団法人大阪府建築士会, 2008.11,

青木茂

日経アーキテクチュア No.887, 日経 B P 社, 2008.11,

青木茂

建設物価 第 1060 号, 財団法人建設物価調査会, 2008.12,

青木茂

新建築 12 月号, 新建築社, 2008.12,

青木茂

日経アーキテクチュア No.890, 日経B P社, 2008.12,

<都市空間システム>

【中林一樹】

1. 審査論文

米野史健・中林一樹 (2008) 「被災した区分所有集合住宅に対する復興支援策—台湾・集
集地震における被災集合住宅の再建 その1—」日本建築学会計画系論文集、No. 626,
pp. 833-839, 2008. 4

Fumitake Meno and Itsuki Nakabayashi (2008) “Support measures for Reconstruction of
Condominiums Damaged by Earthquakes - Comparative Study on the Hanshin-Awaji
Earthquake of 1995 in Japan and the 921 Chi-Chi Earthquake of 1999 in Taiwan - “,
Journal of Asian Architecture and Building Engineering, Vol. 7 No. 2, pp. 325-332,
2008. 11

Itsuki Nakabayashi, Shin Aiba and Taro Ichiko, Pre-Disaster Restoration Measure of
Preparedness for Post-Disaster Restoration in Tokyo, Journal of Disaster Reserch
Vol. 3 No. 6, 2008

Takaaki Kato, Itsuki nakabayashi an, Taro Ichiko, Development of Plannning Support
System for Urban Rehabilitation and Reconstructin, Journal of Disaster Reserch Vol. 3
No. 6, 2008

佐藤慶一・中林一樹・翠川三郎 (2008) 「地震被害想定を用いた応急住宅対策のミクロシ
ミュレーション—東京湾北部地震M7. 3時の応急住宅状況の予測—」都市計画論文集
N0. 43-3, 715-720頁, 2008. 11

石川永子・池田浩敬・澤田雅浩・中林一樹 (2008) 「被災者の住宅再建・生活回復から見
た被災集落の集団移転の評価に関する研究—新潟県中越地震における防災集団移転促進事
業の事例を通して—」都市計画論文集 N0. 43-3, 727-732頁、2008. 11

2. 口頭発表

中林一樹「わが国の地域防災計画における複合災害対応の現状と課題-都道府県・政令指定
都市にとっての複合災害-」科学研究費基盤研究(S)「広域複合災害と素意の防災戦略」研
究成果公開報告会, 東京, 2008. 6

Itsuki NAKABAYASHI “Important Issues for Disaster Recovery and lessons learned from

the 2004 Chuetsu Earthquake in Japan” China Planning Network 2008, Beijing, July 2008

中林一樹 「山間地域の被災と復興への地域づくり」 2008年度日本地理学会秋季大会・公開シンポジウム，盛岡，2008.10

中林一樹 「巨大震災の被害軽減のための社会技術開発」 東工大GCOE公開講演会，東京，2008.10

中林一樹 「巨大地震災害と災害の複合化- 21世紀は複合災害の時代- Huge Earthquake Disaster and Complication of Different Disasters - 21st Century: Era of Complex Disaster -」 台湾災害管理学会（基調講演），台北，2008.10

市古太郎，村上大和，中林一樹（2008） 「東京圏基礎自治体における震災復興対策の事前取り組み状況-2007年アンケート調査から-」 地域安全学会一般論文ポスターセッション，pp. 99-102，2008

市古太郎・饗庭 伸・吉川 仁・中林一樹 「震災復興まちづくり模擬訓練を通じた地域復興組織イメージの事前形成可能性-練馬区桜台地区の事例から-」 日本災害復興学会2008年度学会大会予稿集，95-98頁，日本災害復興学会，2008.11

饗庭 伸・中林一樹・市古太郎・吉川 仁 「容積率指定に着目した東京の都市復興に関する研究」 日本災害復興学会2008年度学会大会予稿集，123-128頁，日本災害復興学会，2008.11

中林一樹 「首都の復興が目指すべきもの」 提案公募研究「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」 研究成果報告会，東京，2009.2

Itsuki NAKABAYASHI 「The northern Tokyo Bay Earthquake as mega-disaster and Strategic Studies for Mitigation and Recovery.」 TIT 6th ICUEE (Keynote speech) 東工大第6回都市地震工学国際会議（基調講演），Tokyo, March 2009.

Itsuki NAKABAYASHI 「Reconstruction or Relocation?: Planning Issues for Recovery from Disaster.」 The 2nd Japan-China Science Forum (第2回日中科学フォーラム)，Beijing, March 2009

3. その他

3-1. 専門書

中林一樹（共著）『世界と日本の災害復興ガイド』（兵庫県震災復興研究センター・他編），「トルコ北西地震」60-63頁，「首都圏直下型地震への備え」166-169頁，クリエイツかも

がわ, 2009. 1

3-2. 研究報告

中林一樹 (監修) 「自治体のBCP ―地震に負けない自治体づくり―」東京都市町村調査会, 2009. 3

八王子市・首都大学東京事前復興計画研究会「平成20年度 八王子市諏訪町地区 震災復興模擬訓練の記録」2009. 2

葛飾区・首都大学東京事前復興計画研究会「平成20年度 葛飾区堀切地区 震災復興模擬訓練の記録」2009. 3

中林一樹・市古太郎・他「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト; 3.2効果的な行政対応態勢の確立「地域・生活再建過程の最適化二関する研究・成果報告」(27頁) 2009. 4

3-3. 解説・評論

中林一樹・小田切利栄 「「多摩市の都市づくりに関する市民意向調査」報告―その1 都市計画の知識と高さ制限の意向の関連性を中心に―」都市科学研究, 第2号, 35-48頁, 2008

中林一樹「東京における地震危険の事前評価と地震に強い都市づくり」都市科学研究, 第2号, 69-81頁, 2008

中林一樹「東京の市街地の変遷と防災上の今日的課題」新都市Vol. 62, No. 9, 26-32頁, 都市計画協会, 2008. 9

中林一樹「地震災害と防災・教育」地理の研究, No. 179, 10-16頁, 山川出版社, 2008. 10

中林一樹「「地震被害想定を活用する」意義と可能性」建築防災, 通巻369号, 2-5頁, 日本建築防災協会, 2008. 10

中林一樹「山間地域の被災と復興への地域づくり」地図中心, 通巻436号, 10-11頁, 日本地図センター, 2009. 1

中林一樹 (監修) 「「もしも」のためにできること」ぼうさい, No. 49, 4-13頁, 内閣府 (防災担当), 2009. 1

中林一樹「首都直下地震に備える」新時代, Vol. 67, 2-3頁, 国土交通省国土計画局, 2009. 3

【玉川英則】

2. 口頭発表

玉川英則, “Sustainable Cities”, 国連大学公開講座～地球規模課題シリーズ, 国連大学, 2008年5月16日.

玉川英則, 小川美由紀, 「創造限界を活動拠点とするアーティスト・クリエイターの実態調査－新しい人的資本と都市空間再編－」, 横浜市創造都市教育研究補助事業報告会, BankART Studio NYK, 2009. 3. 27.

3. その他

3-1. 専門書

玉川英則編著, 『コンパクトシティ再考』 (都市科学叢書・第2巻), 学芸出版社, 2008年11月.

3-2. 研究報告

玉川英則・小川美由紀, 『創造限界を活動拠点とするアーティスト・クリエイターの実態調査』, 横浜市創造都市教育研究補助事業報告書, 2009. 3.

3-3. 解説・評論

玉川英則, 「韓国と日本－トップダウン vs. ボトムアップ?」, 『GIS－理論と応用』, Vol. 16-No. 1 巻頭言, 2008. 6.

玉川英則, 「GIS－基礎と応用」, 『GIS－理論と応用』, Vol. 16-No. 2巻頭言, 2008. 12.

玉川英則, 「タバコのポイ捨てポテンシャルの分布構造 仙台市中心部のアーケード街を対象として」(高橋祐平, 石坂公一, 小地沢将之) に対する評論、『日本建築学会技術報告集』第15巻 第29号, p. 355, 2009. 2.

【伊藤史子】

1. 審査論文

山下研・伊藤史子「アジア地域における窒素酸化物の排出による酸性雨の生態系への影響」, 『GIS－理論と応用』, Vol. 17-No. 1, 2009.

3. その他

3-1. 専門書

伊藤史子・堀川知子・中東雅樹, 「広域合併とコンパクトシティ－新・新潟市の区割り」と区役所位置の検討」, 『コンパクトシティ再考:理論的検証から都市像の探求へ』(玉川英則編), 190-208, 学芸出版, 2008.

Fumiko ITO and Akiko MURATA, ‘Artificial Neural Network Model Estimation Land Use Change in the Southwestern Part of Nagareyama City’, “Frontiers in Urban Analysis”,

65-80, Taylor and Francis, 2009.

【市古太郎】

1. 審査論文

Itsuki Nakabayashi, Shin Aiba, Taro Ichiko, Pre-Disaster Restoration Measure of Preparedness for Post-Disaster Restoration in Tokyo, Journal of Disaster Reserch Vol.3 No.6, 2008

Takaaki Kato, Itsuki nakabayashi, Taro Ichiko, Development of Plannning Support System for Urban Rehabilitation and Reconstructin, Journal of Disaster Reserch Vol.3 No.6, 2008

2. 口頭発表

市古太郎 (2008) 「東京圏基礎自治体における首都直下地震を想定した都市復興準備対策の現況」自治体危機管理学会 2008 年度研究大会分科会 2 課題報告

市古太郎, 饗庭伸, 吉川仁, 中林一樹 (2008) 「震災復興まちづくり模擬訓練を通じた地域復興組織イメージの事前形成可能性-練馬区桜台地区の事例から-」日本災害復興学会大会発表梗概集, pp.91-94

市古太郎, 村上大和, 中林一樹 (2008) 「東京圏基礎自治体における震災復興対策の事前取り組み状況-2007 年アンケート調査から-」地域安全学会一般論文ポスターセッション, pp.99-102

市古太郎 (2008) 「事前復興まちづくり：『事前』からよい復興に向けての準備は可能なのか？」日本建築学会大会(中国)都市計画部門パネルディスカッション「よい復興とは」, pp.27-33

加藤孝明・石川金治・市古太郎 (2008) 「広域セロメートル地域」におけるハサートマップの理解と長期的対策検討ワークショップの取り組み-東京都葛飾区西・東新小岩地区での試み-, 土木計画学発表会, 2008.6

3. その他

3-1. 専門書

市古太郎 (2008) 「都市防災とコンパクトシティ」『コンパクトシティ再考』学芸出版社, pp.151-189

<都市社会システム>

【星 旦二】

1. 審査論文

高 燕，星 旦二，中山直子，高橋俊彦，栗盛須雅子，都市在宅前期高齢者における就労状態別にみた3年後の累積生存率，日本社会医学研究，26(1)，pp.1-8，2008.

劉 新宇，高 燕，中山直子，猪野由起子，星 旦二，都市在宅居住高齢者における主観的健康感の三年後の経年変化，日本社会医学研究，26(1)，pp.9-14，2008.

劉 新宇，中山直子，高 燕，星 旦二，都市在宅高齢者における身体的健康と社会的健康との経年変化とその因果関係，日本健康教育学会誌，16(4)，pp.176-185.2008.

2. 口頭発表

星 旦二，都市の健康とヘルスプロモーション，日本保健医療社会学会誌，19，pp,13-14.2008.

3-1. 専門書

星 旦二編著 公衆衛生 医学書院

星 旦二編著 保健医療福祉行政論 日本看護協会

3-3. 解説・評論

星 旦二，生活習慣病の予防は子どもの食生活改善から，明日からの「子ども食育」にすぐに役立つ本，pp.28-35，2008.

星 旦二，栗盛須雅子，劉新宇，藤原佳典，高 燕，都市の健康水準と都市部在宅高齢者の健康長寿規定要因，都市科学研究，3，pp.63-68，2008.

艾武，巴山，玉連，岡戸順一，櫻井尚子，星 旦二，日中の都市高齢者における主観的健康感が生命予後に及ぼす比較研究，都市科学研究，3，pp.63-68，2008.

星 旦二，明るく、楽しく、ゆたかに生きる，いきいきした生活のために必要な所得確保，健康日本，1，pp.4-7，2008.

星 旦二，明るく、楽しく、ゆたかに生きる，かかりつけ歯科医師のすすめ，健康日本，2，pp.4-7，2008.

星 旦二，明るく、楽しく、ゆたかに生きる，長寿で長生きは年金獲得1億円！，健康日本，3，PP，4-7.2008.

【羽貝正美】

2. 口頭発表

Masami HAGAI, 2008, Toward Mature City of the 21st Century : re-examination of paradigm

of urban policy, International Forum on the Beijing 2008 Olympic Games : Olympic Environment Construction and Urban Development. (in English, Beijing, China)

羽貝正美、2008、「21 世紀における新しいまちづくりの展開—成熟都市を支える二つの自治—」(高雄市、台湾)

3. その他

3-2. 研究報告

羽貝正美 2008 「フランスにおける小規模コミュニティとコミュニティ間協力組織—今ひとつの「地域的まとめ」の模索とその課題」、名和田是彦編著『地域自治とコミュニティの国際比較』日本評論社(近刊)

Masami HAGAI, 2008, “Japon : un nationalisme rural “(en collaboration avec Patricia MARMIGNON), L’ Urbaphobie : démontage d’ un désamour (Editeurs: Bernard MARCHAND, Joelle SALOMON CAVIN), Presses de l’ Université de Lausanne (à paraître)

Masami HAGAI 2008 “Toward Mature City of the 21st Century : re-examination of paradigm of urban policy” , International Forum on the Beijing 2008 Olympic Games : Olympic Environment Construction and Urban Development.

3-3. 書評

羽貝正美 2008 小川竹二『災害と破綻のまちから分権型の政令市へ』、新潟日報

羽貝正美 2008 馬場健・南眞二『まちづくり基本条例を創る』、新潟日報

羽貝正美 2009 田中 傑『帝都復興と生活空間 関東大震災後の市街地形成の論理』、『都市政策研究』第3号

3-4. 翻訳

羽貝正美 (西田奈保子と共訳) 2008 ベルナル・マルシャン「フランスの都市計画と持続可能な発展」(原題: Bernard MARCHAND, French Urban Planning and Sustainable Development)、『都市科学研究』第2号

【竹宮健司】

1. 審査論文

竹宮健司

英国における小児ホスピスの療養環境計画と運営体制

日本建築学会計画系論文集, NO. 634, P. 2573-2581, 2008 年 12 月

2. 口頭発表

松山有希子, 竹宮健司

乳幼児期を対象とした子育て支援施設の利用特性に関する研究 武蔵野市におけるケース

スタディー

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 189-190, 2008

相馬建, 竹宮健司

高齢者居住施設における医療機能を付加した支援環境に関する研究,

有料老人ホーム H におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 425-426, 2008

田龍一, 数藤良太郎, 竹宮健司

集中治療病棟の療養環境整備状況, 集中治療病棟の療養環境整備のあり方に関する研究

その 1

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 477-478, 2008

数藤良太郎, 竹宮健司

集中治療病棟の療養環境構成に関する事例検討, 集中治療病棟の療養環境整備のあり方に

関する研究 その 2

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 479-480, 2008

阿部光, 竹宮健司

精神科医療施設の入院・通所部門の利用特性に関する研究, K 病院におけるケーススタデ

イ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 483-484, 2008

5. 解説・論評

竹宮健司

医療福祉用語の基礎知識, 医療福祉建築, No. 160, 2008

竹宮健司

ホスピス, 建築大百科事典, 朝倉書店, p. 564-565, 2008

【饗庭 伸】

2. 口頭発表

饗庭伸, 澤田雅浩, 川原晋, 牧紀男, 桑田仁

都市縮退時代のアーバンデザイン手法に関する研究 その1 首都圏の自治体の対策と市街

地の実態について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 959-960, 2008

饗庭伸, 中林一樹, 市古太郎, 吉川仁

容積率指定に着目した東京の都市復興に関する研究, 日本災害復興学会2008年度大会予稿

集, pp123-128, 2008

3. その他

3-1. 専門書

米野史健・饗庭伸・他

住民主体の都市計画, 学芸出版社, 2009

廣瀬克哉・饗庭伸・他

議会改革白書2008, 生活社, 2009

似田貝 香門・饗庭伸・他

まちづくりの百科事典, 丸善, 2009

3-2. 研究報告

饗庭伸, 澤田雅浩, 川原晋, 牧紀男

都市縮退時代のアーバンデザイン手法に関する研究, 人と国土 第33巻第6号, pp. 8-13, 2008

饗庭伸

都市縮退時代の住宅デザイン, 住宅 Vol. 57, pp13-18, 2008

Shin AIBA

The introduction of citizen' s participation system to Japanese local government, Planning for Social Harmony, pp57-69, Kyung Hee university Center for Asia-Pacific studies, 2009

Shin AIBA

Comparative history of community design in Korea, Taiwan and Japan (in Japanese, Korea and Chinese), Proceedings of ASCOM 2008 Fall Workshop in Seoul, pp3-100, 2009

【山本薫子】

2. 口頭発表

山本薫子, 都市下層地域における社会構造の変容と再編ー横浜・寿町を事例として, 第33回地域社会学会大会, 2008年5月10日.

山本薫子, 都市下層社会の変容と再編ー横浜・寿町の事例から, 第18回山口地域社会学会研究例会, 2008年7月12日.

山本薫子, 外国人住民増加が都市コミュニティに与えた社会的インパクトー広島県呉市を事例としてー, 第26回日本都市社会学会大会, 2008年9月13日.

Yamamoto, Kahoruko, The Changes in the Social Structure and Social Activism in the Urban Underclass Area: A case of Yokohama, Japan, ISA-RC21 Tokyo Conference, 2008

年12月19日.

3. その他

3-1. 専門書

Yamamoto, Kahoruko, Poverty and exclusion as it affects migrant workers from overseas: in terms of employment, housing and consumption”, Iwata, M. & Nishizawa, A. eds., *Poverty and Social Welfare in Japan*, Trans Pacific Press: Melbourne, pp.226-240., 2008.

山本薫子, エスニック・マイノリティによる表現活動の実践と表象のポリティクスー日系ブラジル人を中心とするヒップ・ホップ・グループの事例からー, やまぐち地域社会研究, Vol.6, pp.31-43, 2009.

4. 特定学術研究（平成20年度）

研究者	件数	金額・種目・題目・企業名等
寄付金による研究		
上野淳	1	「教育施設の建築計画に関する研究」（安藤建設）
深尾精一	1	
角田誠	1	「住宅ストックの活用に向けた専門工事業の組織化に関する基礎的研究」（トステム建材産業振興財団）
芳村学	1	
市川憲良	1	「都市域を中心とした建物内の水環境に関する研究」
受託研究費による研究		
須永修通	1	「横浜市学校施設環境改善対策実証実験」（横浜市）
中林一樹	2	「八王子市諏訪町周辺地区地域協働復興模擬訓練企画及び実施業務委託」八王子市, 150万円 「葛飾区震災復興マニュアル作成及び復興模擬訓練委託」葛飾区, 900万円
産学共同研究費による研究		
吉川徹	1	「地図配信ASPを活用した地域情報共有プラットフォームの構築研究」
橘高義典	1	「エコセメントコンクリートの中酸化による強度特性に関する研究」（太平洋セメント）
須永修通	2	「断熱改修の工法等に関する研究」、「パッシブ空間における躯体の蓄熱効果に関する研究」
松本真澄（代表） 伊藤史子（分担）	1	「女性のライフスタイル変化に伴う住要求に関する調査」（旭化成ホームズ）
吉川 徹（代表） 玉川英則（分担）	1	（株）ソフマック
提案公募型研究費による研究		
小泉雅生	1	「既存構造躯体の撤去・補強を核としたWPC構造住宅高度利用促進技術の開発」（国土交通省建設技術研究開発助成制度）
橘高義典	1	「原子炉建屋コンクリートの健全性の微視的評価方法に関する研究」（経済産業省平成20年度高経年化対策強化基盤整備事業）
須永修通	2	「中国の住宅建築におけるサステナブル化の早期推進」（東京都企画政策費）、「事務所建築における断熱内戸を用いた温熱環境改善および環境負荷低減効果」（三鷹ネットワーク大学推進機構「民学産公」協働研究事業）
中林一樹	1	「首都直下地震防災・減災翌別プロジェクト:効果的な行政態勢の

		確立：地域・生活再建過程の最適化に関する研究」（文部科学省：京都大学防災研究所）500万円
饗庭 伸（代表）	1	East Asia Community Design Comparative Study・学術振興会 2 国間交流事業・120万円
文部科学省科学研究費		
芳村学	1	基盤B（一般）脆性的挙動を示す既存鉄筋コンクリート建物の耐震性評価の精密化に関する研究
吉川徹	1	基盤C（一般）地域公共施設の空間機能・性能と需給分布を統合した自律恒常的空間提供システムの構築
橘高義典	1	基盤C（一般）耐震素材としての高強度繊維補強コンクリートの混合モード破壊特性に関する研究
須永修通	1	基盤C（一般）建築基準法改定に向けたエコスクールの設計基準・改修指針
角田誠（分担）	1	基盤B（海外調査）安全に着目した英・豪の小学校空間の計画手法
角田誠（分担）	1	基盤C（一般）インフィル指向型スケルトンによる長寿命建築システムに開発研究
中村孝也	1	若手研究（B）サブストラクチャ擬似動の実験による鉄筋コンクリート建物の中間層崩壊に関する研究
中林一樹	1	科学研究費（基盤B）トルコにおける被災市街地の移転復興が現地復興に与えた影響と復興手法としての可能性（研究代表者）572万円（間接経費132万円含む）
中林一樹	1	科学研究費（基盤S）巨大複合災害とその防災戦略（研究分担者）120万円
竹宮健司（代表）	1	（基盤研究C）精神疾患患者の継続的な受療行動分析に基づく包括的社会復帰支援システム・環境の構築 1,430,000円
山本薫子（代表）	1	若手研究（B）都市インナーエリアの再編過程に関する社会学的研究・70万円
その他		
玉川英則（代表）	1	横浜市創造都市教育研究補助事業 創造界限を活動拠点とするアーティスト・クリエイターの実態調査 50万円
饗庭 伸（代表）	1	饗庭伸・アジア隣人ネットワークプログラム（トヨタ財団）・東アジアにおけるまちづくりの現代史を共有するアーカイブ・ネットワークの構築 300万円

5. 学位論文リスト（平成20年度）

【博士論文】 建築学専攻（*付きの2名は、都立大学工学研究科建築学専攻）

学位取得者	論 文 題 目
金 紅日*	古い鉄筋コンクリート柱の耐震性能、特に崩壊性状に及ぼす袖壁と直交壁の影響
小川 仁*	居住機能を伴う建築ストック再生手法に関する実践的研究ー公共集合住宅エレベータ付加改修システム及び事務所建築物の居住用途への転用
齋藤 茂樹	戸建住宅の外壁における防災性能評価とその将来変化予測
謝 秉銓	空間構成と運営管理に着目した既存公共施設ストックマネジメント手法に関する研究
寺嶋 修康	オープンスペースを持つ学校建築の系譜と展望

【博士論文】 都市科学専攻（*付きの3名は都市科学研究科都市科学専攻。**付きの1名は都立大学都市科学研究科都市科学専攻）

学位取得者	論 文 題 目
新谷 陽子**	雪道スリップ転倒の発生構造と転倒回避行動を促す情報提供の効果に関する研究
劉 新宇*	都市在宅高齢者における健康3要因の因果関係に関する構造研究
高 燕	都市住民の就労状態とQOL及び生命予後との関連研究ー青壮年女性と前期高齢者を対象としてー
石川 永子*	環境移行をともなう移転復興に関する計画論的研究 ートルコ・マルマラ地震および新潟県中越地震の移転復興事業を事例としてー
小川美由紀*	現代の先進国における人的資本に基づく都市政策と都市空間の変容に関する実証的研究 ー「文化芸術創造都市 ークリエイティブシティ・ヨコハマ」を事例としてー

【修士論文】 建築学専攻（*付きの1名は工学研究科建築学専攻）

学位取得者	論 文 題 目
飯倉 健自	地方自治体による旧生産施設の転用実態からみた活用計画に関する研究
市川 徹	部分の呼応による視覚的連鎖に基づく設計提案—カルロ・スカルパの建築作品の分析を通して—
伊藤 紗加	学校建築の開口部における光・熱環境改善手法に関する研究
伊藤 雄一	既存鉄筋コンクリート造集合住宅の空間拡大を伴う改修に関する研究
太田 望	住宅における緩衝空間の温熱環境と省エネルギー効果に関する研究
加藤 歩惟	商業店舗のガラスファサードにおける昼夜の見えの変化に関する研究
角野 渉	自然界における集合態に着目した設計提案—造礁サンゴ類の群生空間特性の応用—
茅岡 彰人	ハノイの伝統的都市居住の分析に基づく設計提案—新チュントゥ団地計画—
川上 剛	学習・生活展開の実態と教師の環境評価からみたオープンプラン小学校の計画課題に関する研究
桐生 美由紀	アクセシビリティからみた都市領域の変容に関する研究
工藤 真紀	伝統的建築素材の技術を生かした歴史的建造物の改修手法に関する研究
栗田 実	生活・学習活動の実態からみた総合支援学校の建築計画に関する研究—京都市立総合支援学校を対象としたケーススタディー—
小杉 今日子	御嶽山上集落の土着性に着目した景観分析と修景提案
近藤 隆幸	擬似動的実験による旧基準鉄筋コンクリート柱の崩壊実験
讃岐 亮	複数都市で構成される地域空間の集客ポテンシャルモデル—大規模商業施設の立地とその順序を例として—
柴家 志帆	S I 的手法を先駆的に適用した集合住宅の経年変化に関する研究—グリーンメゾン鶴牧—3を対象として—
鈴木 晶子	躯体の熱容量と空調運転パターンが住宅の熱環境に与える影響
仙崎 智渉	定着型補強筋による鉄筋コンクリート柱のせん断補強実験
高橋 宏聡	ヘニング・ラーセンの建築作品と創作理念に関する考察

谷 泰人	オットー・ヴァーグナーの作品における構成手法の分析
堤 紀考	人工社会での自治体間競争から見た密度規制戦略の評価
常橋 明浩	CFD シミュレーションに基づく屋根形状に着目した住居の設計プロセスの提案
角田 花菜	アジア都心部における集合住宅の更新に関する研究—同潤会の事例分析とチュントゥ団地への適用可能性—
中島 賢昭	公共建築の大規模改修における阻害要因に関する研究
西 紗奈江	ベトナムの建築教育の現状に関する調査研究—カリキュラム及び学生のデザイン傾向の分析—
野副 晋平	ベトナム北部木造教会堂群の現地調査及び周辺施設設計提案
林 秀樹	下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施したRC立体骨組の耐震性能評価
松井 亮介	街路における景観構成要素の視覚的割合に関する研究
松林 佑子	変容実態からみるハノイ集合住宅団地の住まい方に関する研究
蓑田 朋章	ベトナム北部少数民族観光集落の実態と変容過程に関する調査研究—ホアビン省サンモー村を対象として—
森 創太	自然風景と複合した建築の意匠的考察および設計提案
森阪 史洋	集合住宅の改修工事における不確定要素に関する研究 —部分解体工事に着目して—
安田 賢吾	公営集合住宅における高齢者の生活様態と見守り環境に関する研究 —片廊下型とリビングアクセス型住宅の比較—
梁井 理恵	集合住宅ストック活用によるコレクティブハウジング改修プロジェクト
渡辺 創一郎	加熱の影響を受けたコンクリートの中性化に関する基礎的研究
長谷川 徹*	アルゴリズム的手法による形態形成に関する分析と実践

【修士論文】 都市システム科学専攻（*付きの1名は都市科学研究科都市科学専攻）

学位取得者	論 文 題 目
池田 典史	文化財の統合型防災支援システムに関する研究
妻 大慶	稲城市における公共図書館の利用構造に関する分析

余 錦芳	福祉亭の人々ー多摩ニュータウンの高齢者支援スペースと利用者の生活様態に関する研究
波田 康	リンパ浮腫患者の QOL ～複合的理学療法による治療前後の変化
井上 直子	都市部と中山間部に居住する後期高齢者における身体的・社会的・精神的活動の構造分析
高橋 哲郎*	遊休する公共施設の二次的整備方針の検討における市民意識の反映に関する研究
長坂 裕昭	連接都市の行政境界に起因する都市計画課題に関する研究 ー文京区と隣接区の都市計画マスタープランを事例にー
櫻井 健也	駅名で聞いた「街の格付け特集情報」と駅勢圏別人口動向との関連に関する研究 ー雑誌「東京 walker」読者層の居住地選好行動に着目してー
王 雷	中国における人口・産業分布と輸送エネルギーに関する実証的研究
藤永 智士	都市における空間と人間行動の相互作用に関する定量的分析 ー東京都市圏における移動と商業分布の関係を例としてー
佐藤 圭奈	運営方針の変遷と利用者による場の解釈からみた中高生対象施設 ー「ゆう杉並」を事例としてー
田 龍一	がん医療の発展に対応した医療施設計画に関する研究 ーがん診療連携拠点病院を対象としてー
加藤 拓哉	視覚障害者誘導用ブロックが街路景観に及ぼす影響要因に関する研究
太田 悠悟	来街者行動に着目した都市部観光地域における入込客数推計に関する研究